

令和5年度 横浜国立大学教育学部附属特別支援学校

研究報告書

特別支援学校における 授業成果の「評価の見える化」

令和5年度（最終年度）
～「見える化ステップ」の構築・実践・検証～

令和6年3月

目 次

第 1 章 本校の研究

- | | |
|----------------|--------|
| I. 研究の背景と目的 | p1 |
| II. 研究方法 | p2 |
| III. 芸術チーム研究概要 | p3～p5 |
| IV. 国語チーム 研究概要 | p6～p8 |
| V. 本研究における成果 | p9～p10 |

第 2 章 学習指導案集

- | | |
|-----------------|--|
| I. 芸術チーム 学習指導案 | |
| ・小学部 | |
| ・中学部 | |
| ・高等部 | |
| II. 国語チーム 学習指導案 | |
| ・小学部 | |
| ・中学部 | |
| ・高等部 | |

第1章 本校の研究

I. 研究の背景と目的

グローバル化や感染症対策による生活や学びのスタイルの変化など、現在子どもたちを取り巻く環境は日々変化し続けている。さらに続いていく予測困難なこれからの時代を生き抜いていくために、生きる力の育成を目指した学習指導要領の改訂が2018年から行われた。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領総則では、学習評価について「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り資質・能力の育成に生かすようにすること。」「創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を超えて児童又は生徒の学習の成果が円滑に接続されるよう工夫すること。」が示されている。

本校では令和2年・3年度で「魅力デザインプロジェクト」の研究に取り組んだ。この研究では、子どもたちの魅力を授業を通して引き出すために、「魅力ある自己表現を引き出す」こと「授業で引き出したい魅力を深める」ための授業デザイン技法の作成・整理に取り組んだ。授業で子どもたちの魅力を発見することや魅力に焦点を当てることができ、魅力を引き出す授業作りに有効だった一方で、魅力を引き出す授業で子どもたちにどういった力（資質・能力）が身についたのか授業成果の根拠を明らかにする必要があることが大きな課題としてあげられた。

そこで、令和4年度から、特別支援学校における授業成果の「見える化」～評価しにくい内容を評価しやすくするための手続き～を研究テーマとして2年間の研究に取り組んだ。

本研究の目的としては、

- ①授業の成果を示す「根拠」となる手続きを明確にすること。
- ②特別支援学校における、信頼性、妥当性のある学習評価を目指すこと。

の2点である。特別支援学校学習指導要領第1章第4節の3に単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫すること。特別支援学校学習指導要領第1章第4節の3に学習指導の妥当性や信頼性が高められるよう組織的かつ計画的な取り組みを推進することや、文部科学省特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料では、各学校において、目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うにあたって、各学校において観点ごとに評価規準を定める必要があるとしている。

評価規準の作成は、具体的には学習指導要領の目標・内容から各教科における内容のまとまり、評価の観点との関係を確認、観点ごとのポイント、内容のまとまりごとの評価規準を作成することを文部科学省が示している。このように、知的障害教育部門の特別支援学校における各教科の観点別学習状況の評価については、わかりづらさや運用の難しさを感じ、この手続きを整理し、「見える化」していくことを本研究では取り組むこととした。

Ⅱ. 研究方法

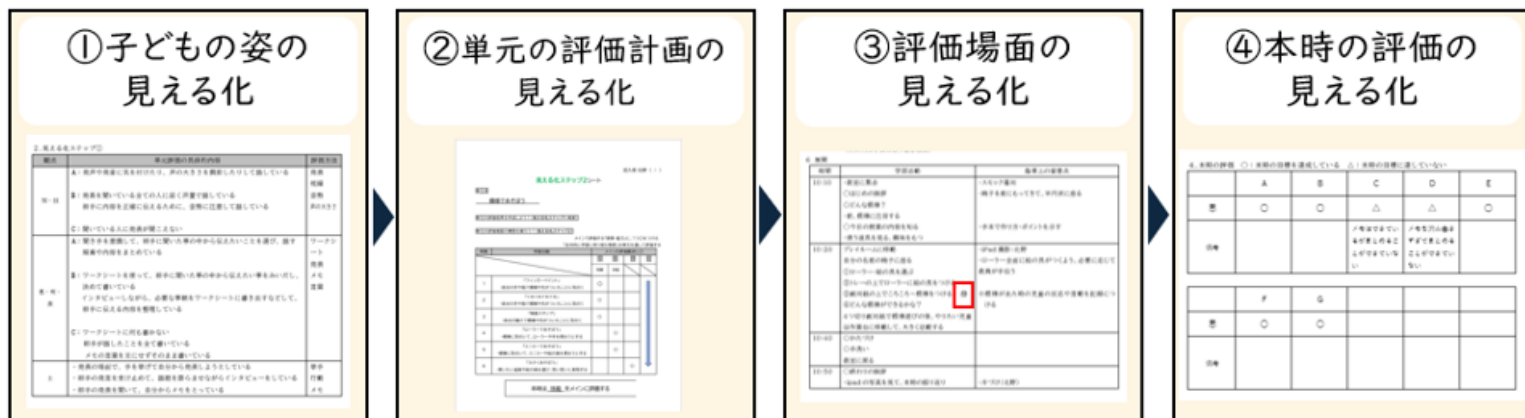


図1 「見える化ステップ」における学習評価の手続きの構築

本校の研究の軸となるのが「見える化ステップ」(図1)である。教員が授業を作っていくための手続きを「見える化」したものである。この見える化ステップは①～④までの手続きが指導略案とA4用紙1枚のワークシートで完結する仕組みになっている。

【見える化ステップ①～子どもの姿の見える化～】

見える化ステップ①では、単元の評価基準を作成する。評価する子どもの姿を「見える化」したもので、視覚的に確認できる行動や成果物の例などを示したものである。その単元で、どのような資質・能力が身についたのか、子どもの実際の姿から評価を見取りやすくなるのではないかと考えこの手続きを設定した。

【見える化ステップ②～単元の評価計画の見える化～】

見える化ステップ②では、A4用紙1枚のワークシートを使用し、単元の評価計画の構想を立てる。単元内で確実に3観点の評価ができ、授業計画がしやすくなるのではないかと考え設定した。

【見える化ステップ③～評価場面の見える化～】

見える化ステップ③では、指導略案上に、評価する観点と学習場面を明記する。評価する観点と学習活動を焦点化し、STの教員と評価場面を共有することで、チームティーチングでの評価に有効ではないかと考えこの手続きを設定した。

【見える化ステップ④～本時の評価の見える化～】

見える化ステップ④では、指導略案上に、本時の評価記録欄に3観点の評価項目が評価される場面を明記したり、学習指導略案の最後に本時の学習評価を記入できるようにする。そうすることで、本時の評価が見えやすくなり、次時の授業や指導改善につながるのではないかと考え設定した。

Ⅲ芸術チーム 研究概要

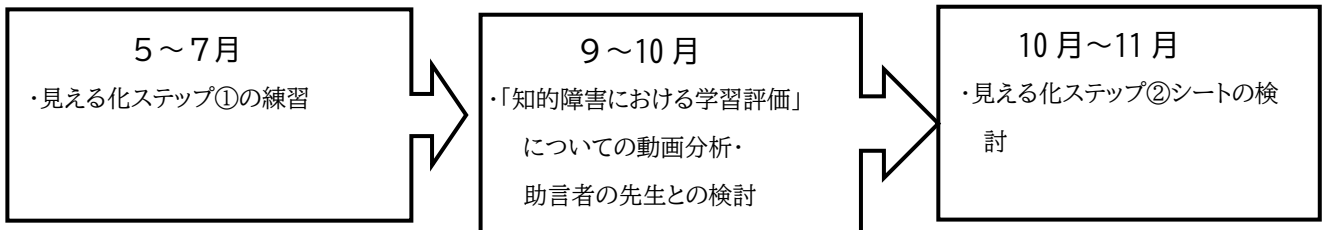
1 芸術チームの研究の目的と背景

芸術チームは、小学部の音楽科、中学部の音楽科、高等部の美術科を担当する教員によって構成されている。なお、音楽科・美術科の専科の教員は、所属していない。令和4年度は、見える化ステップ①と見える化ステップ②の実践と検証をした。その実践の成果として、評価規準・評価基準の作成をして授業実践ができるようになり、授業の成果が見やすくなった。しかし、チームティーチングでの評価方法や、より妥当性・信頼性のある評価については課題が残った。

そこで、今年度は見える化ステップ③「学習活動に評価の観点を示す」見える化ステップ④「授業後に本時の評価を○・△で記録する」を加えて、特別支援学校の芸術科目における「妥当性・信頼性のあるチームティーチングでの評価」の実践と検証を行っていく。

2 研究の方法

☆令和4年度の流れ



☆令和5年度の流れ

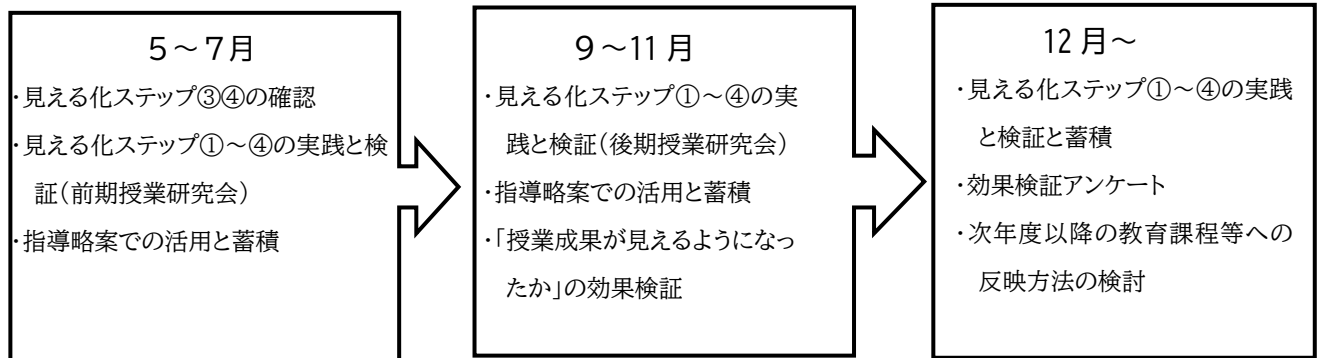


図1 見える化ステップ授業実践活用の流れ

芸術チームは、これまでに6回の授業研究会と3回の勉強会（授業研究会後にどのような改善をしたのかを協議する場）を実施し、「見える化ステップ」を使った『評価』に関する協議・『授業（指導）改善』に関する協議・情報共有がなされた。

3 研究の経過（授業研究会の協議内容より）

『授業（指導）改善』に関する協議事項と結果

○芸術科目では、どこまで生徒の発想や表現を評価するか。どこまで教員のやらせたいことを求めるか。

→題材設定を明確にすること。発想の自由度は尊重して、新たに知識・技能を教えることで生徒がどう変化したかを評価する。

○評価規準からはみ出した生徒の評価はどうするか。

→備考欄に記入をして指導・改善を行う。複数の目で評価規準を見る。

『評価』に関する協議事項と結果

○「イメージして歌おう」・「イメージしてつくろう」はなんでもいいのか。音楽、美術として重視するところは何か。

→どんな風に歌いたいか、作りたいかを問いかける。それを達成するための技能を身に付け、生徒のイメージ（感性）を大切にしていく。

○作品や表現に正解はあるのか。

→作者の正解と鑑賞者の正解がある。様々な見方がある。感じたことを言語化させる場面が必要。

→言語化できない生徒には普段から見える化ステップ②と④の活用と蓄積で変化をみとり評価を行う。

～『評価』と『授業（指導）改善』に関する協議事項と結果から～

これらは協議会や勉強会での協議内容の一部ではあるが、見える化ステップに基づいて授業を実践することで評価の具体的な場面や内容を検討する機会となり、授業の改善がしやすくなっている。また、見える化ステップ④を ST の教員が活用することで「どのように評価しているのか」「どの場面を見取っているのか」「どのような様子だったのか」を複数の視点で共有することができ、チームティーチングでのより妥当性・信頼性のある評価に繋がっている

4 研究の結果

(1) 見える化ステップ①について

学習指導要領を使用し、「内容のまとめりごとの評価規準」から「単元の評価規準」を考え、見える化ステップ①を作成した。芸術チーム教員による授業を例に示し、思考・判断・表現の具体的内容の表記について皆で検討をした。音楽においては、音符やリズムの組み合わせによって、生徒独自の表現がうまれる。それら进行评估する際に芸術科目ならではの「表記視点」を共有した。

(2) 見える化ステップ②について

芸術科目の「知識・技能」について、知識と技能が学習指導要領には分けて記載してある（「知識」は[共通事項]の（ア）、「技能」はA表現の（イ））。そのため、「知識・技能」を分けて目標と評価規準を表記することもあることから、「本時」のメインの評価観点を「知識」と「技能」に分けた方が、より教科の特徴を反映した評価ができるのではないかと考えた。「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体を通して評価することも、単元の要所で評価場面を設定することもあり得ると考えた。

(3) 見える化ステップ③について

今年度から「評価場面の見える化」を図るために見える化ステップ③を実践した。本時で評価する観点を学習活動に記す。（例）知識・理解を評価する場合は学習活動に㊦と記入する。

評価の場面を見える化したことで、STの教員との評価場面を共有することができ、チームティーチングでの信頼性や妥当性のある評価に繋がった。

(4) 見える化ステップ④について

今年度から「指導に生かす（本時の）評価の見える化」を図るために見える化ステップ④を実践した。

授業後に本時の評価を「○・△」で記録し単元評価の根拠を蓄積した。また、備考欄には生徒の発言や想定していた評価基準外の活動の様子等を記入した。教員の手元に評価の根拠となるものが残ることで、見える化ステップ③と同様に信頼性や妥当性のある評価に繋がった。

これらの事から、見える化ステップの構築と実践で「教員の授業づくりのしやすさ」「教員の評価のしやすさ（見えやすさ）」に繋がったと感じている。

授業研究会で話題にあがった、芸術科の「児童・生徒の表現を大切にす」授業づくりのためにも、「次の授業（指導）に生かす」という視点を大切にしていきたい。

今後も日々の授業づくりに見える化ステップのノウハウを活用していき、信頼性・妥当性のある評価を日々の授業、子どもたちへの指導に生かしていきたい。

IV国語チーム 研究概要

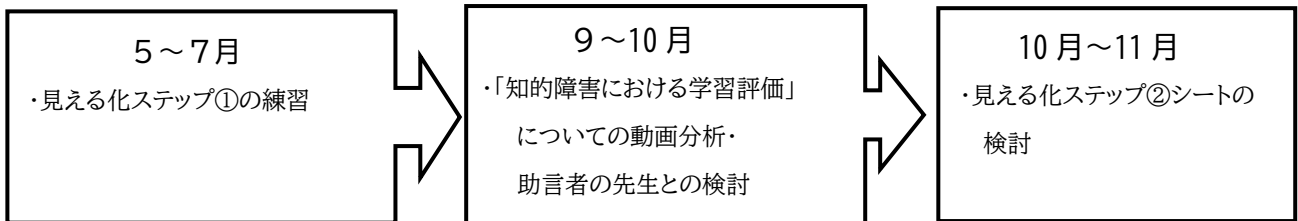
1 国語チーム研究の目的と背景

国語チームは小学部から高等部の国語科を担当する教員によって構成されている。令和4年度は算数科・数学科で見える化ステップ①と見える化ステップ②の実践と検証をした。その実践の成果として、評価規準・評価基準の作成をして授業実践ができるようになり、授業の成果が見やすくなった。しかし、チームティーチングでの評価方法や、より妥当性・信頼性のある評価については課題が残った。

そこで、今年度は見える化ステップ③「学習活動に評価の観点を示す」見える化ステップ④「授業後に本時の評価を○・△で記録する」を加えて特別支援学校の教科授業における「妥当性・信頼性のあるチームティーチングでの評価」の実践と検証を行っていく。

2 研究の方法

☆令和4年度の流れ



☆令和5年度の流れ

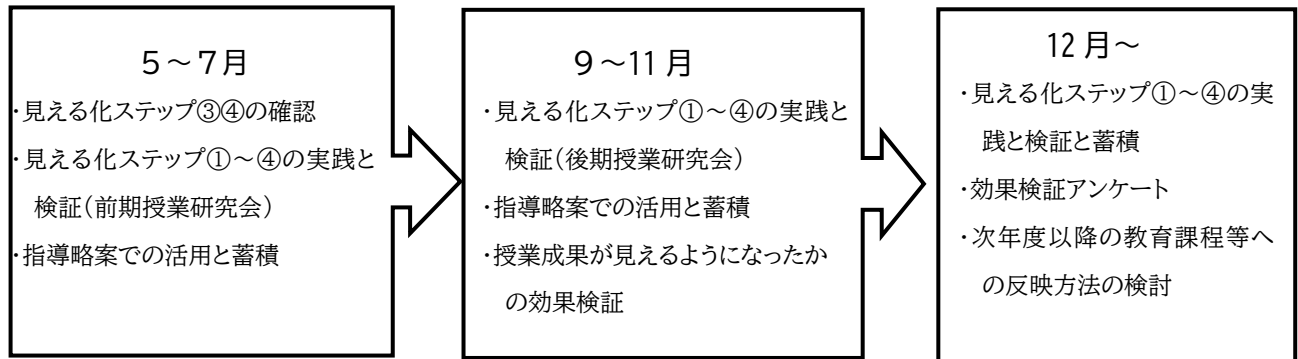


図1 見える化ステップ授業実践活用の流れ

国語チームは、これまでに6回の授業研究会と3回の勉強会（授業研究会後にどのような改善をしたのかを協議する場）を実施し、「見える化ステップ」を使った『評価』に関する協議・『授業（指導）改善』に関する協議・情報共有がなされた。

3 研究の経過（授業研究会の協議内容より）

『授業（指導）改善』に関する協議事項と結果

○国語は「できた」が分かりづらい教科だと思ふ。どのように工夫をしたら分かりづらい部分が分かりやすくなるのか。

→児童生徒自身が「できるようになった」という感覚を実感できる授業づくりのためには、教員が評価のためだけではなく、子どもに対して言語化して伝えたり、達成シートなどで見えるようにしたりすることで「できた」を実感できる授業になると考えられる。

○メモや板書をノートに書く際にそのまま書き写している児童生徒がいる。その中には単語の意味を理解せずに書き写している児童生徒がいるのではないか。

→単語一つずつを説明しながら授業を行うことはできないが、児童生徒の習慣としてわからない単語を調べたり、聞き直したりすることを大切にするとよいのではないか。また、分からないことに気が付いていない実態の児童生徒の場合には聞く、話す、読む、書く、の発達段階を精査して現状でどこにつまずきがあるのかを明らかにして学習の計画を再検討することも重要ではないか。

『評価』に関する協議事項と結果

○聞く、話す、読む、書くなどそれぞれの目標に対する評価内容と評価方法が混ざってしまい評価がしづらい。

→授業の内容や展開をシンプルにして、一つの学習内容で一つの評価をするのはどうか。

→目標と評価に具体的な数字を含んで〇〇以上できた。などの文言を使うことで次の学習段階にもつながると思う。

○言語感覚を養うとは具体的にどのような学習を通して養うべきか。

→自分の思っていることを言語化して相手に伝える経験のことではないか？例えば自分の感情や自分のやりたい遊びなどを友達に対して伝える、交渉する機会を持つことで養われる。

～『評価』と『授業（指導）改善』に関する協議事項と結果から～

授業研究会や勉強会の協議内容の一部ではあるが、見える化ステップに基づいて授業を実践することで評価の具体的な場面や内容を検討する機会となり、授業の改善がしやすくなっている。

見える化ステップ④を、STの教員が授業の評価場面で活用することにより「どのように評価をしているのか」「どの場面を見取っているのか」「どのような様子だったのか」をMTの教員も含む複数の視点で共有することができ、よりチームティーチングでの妥当性・信頼性のある評価に繋がっている。

4 研究の結果

(1) 見える化ステップ①について

学習指導要領を使用し、「内容のまとめりごとの評価規準」から「単元の評価規準」を考えて計画していく。「見える化ステップ①」を作成することは、目標を達成した児童生徒の姿を明確にすることができ、評価に活かすことができた。

(2) 見える化ステップ②について

単元の流れにそって、どの観点をどの学習活動で評価するのか計画した。本時のメインの評価の観点や単元の中での本時の位置付け、何回目の授業でどのような評価の観点を評価するのかを明確にして単元を進めることができた。

(3) 見える化ステップ③について

今年度から「評価場面の見える化」を図るために見える化ステップ③を実践した。本時で評価する観点を学習活動に記す。(例) 知識・理解を評価する場合は学習活動に知と記入する。

評価の場面を見える化したことで、STの教員との評価場面を共有することができ、チームティーチングでの信頼性や妥当性のある評価に繋がった。

(4) 見える化ステップ④について

今年度から「指導に生かす(本時の)評価の見える化」を図るために見える化ステップ④を実践した。

授業後に本時の評価を「○・△」で記録し単元評価の根拠を蓄積した。また、備考欄には生徒の発言や想定していた評価基準外の活動の様子等を記入した。教員の手元に評価の根拠となるものが残ることで、見える化ステップ③と同様に信頼性や妥当性のある評価に繋がった。

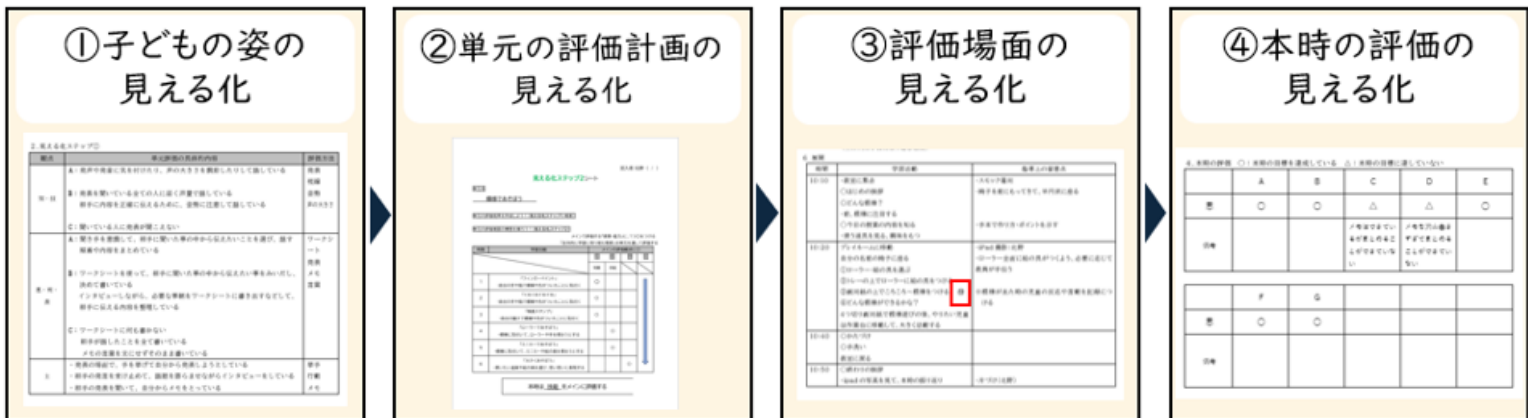
これらの事から、見える化ステップの構築と実践で「教員の授業づくりのしやすさ」「教員の評価のしやすさ(見えやすさ)」に繋がったと感じている。

授業研究会で話題にあがった、国語科の「できるようになった」という感覚を実感できる授業づくりのためにも、「次の授業(指導)に生かす」という視点を大切にしていきたい。

今後も日々の授業づくりに見える化ステップのノウハウを活用していき、信頼性・妥当性のある評価を日々の授業、子どもたちへの指導に生かしていきたい。

V. 本研究における成果

本研究の効果検証を行うために、実際に「見える化ステップ」に取り組んだ本校教員と公開授業研究会参加者に対してアンケートを実施した。本校教員には、見える化ステップシートを用いた授業実践の成果に対するアンケートを実施した。1月に行われた公開授業研究会の参加者に対しては、どの見える化ステップを活用してみたいかについてアンケートを実施した。



(1) 見える化ステップ① ～子どもの姿の「見える化」～

学習評価に取り組んだ教員に対するアンケートの結果より、「具体的な姿を想像して授業構成ができた」、「実態差のある児童の評価に役立った」という意見が寄せられた。公開授業研究会参加者に対するアンケート結果では、見える化ステップ①を活用してみたいという回答が最も多い結果となった。理由としては、「ABCと具体的な様子を決めておくことで、教員としても授業を行いながら到達度を把握することができるのではないと思ったから」、「MTとSTで共通の目指す児童生徒の姿を共有できるのが良いと思ったから」、「何をしたらA、どうだったらBというのが具体例になっていたから」という意見があった。

このことから、見える化ステップ①で、学習活動で期待する子どもの具体的な行動を評価基準として設定することが、学習評価の「見える化」につながり、授業づくりに有効だったと言える。

(2) 見える化ステップ② ～単元の評価計画の「見える化」～

学習評価に取り組んだ教員に対するアンケートの結果より、「評価の3観点のどの部分を主にしている授業なのか整理できた」という意見が寄せられた。本校教員のアンケート結果では、本校教員の見える化ステップ②が授業改善に役立ったという意見が100%の結果となった。理由としては、「単元の評価の見通しがもてる」、「3観点バランスよく評価できる」、という意見が寄せられた。

このことから見える化ステップ②を用いることで、単元計画の中に3観点の評価場面をバランスよく構成することができ、計画的に3観点の指導と評価に取り組むことができた。同時に、見える化ステップ②を用いることで、アイデアや題材が軸なのではなく教科で身につける資質・能力=つまり、子どもの授業の目標が軸となって、単元の計画ができると言える。

(3) 見える化ステップ③ ～評価場面の「見える化」～

本校教員のアンケート結果より、「本時の目標をどの学習場面で見とるのがわかりやすくなった」という意見があった。公開授業研究会参加者に対するアンケート結果では「誰でも同じ基準で評価でき、チームティーチングでの評価をしやすいと感じたため」、「児童生徒への指導時の評価を確実にできるから」、「展開はいつも作っているので新たに何かしなければならないものではないから」、「多忙な業務の中での授業準備で簡単に取組みそうだったから」という意見があった。

4) 見える化ステップ④ ～本時の評価の「見える化」～

本校教員のアンケート結果より、「MT をしながらでは見えなかった個々の学習の様子を知ることができ、次の指導にいかすことができた」、「日々の授業の記録がとれるため、成長や変容に気づくことができた」、「その場で評価できる」、「評価することで、次の支援や学習活動の設定にいかすことができた」、「記録として残る」、「多面的に子供の姿を見取れるようになる」、「ST と授業を共有するきっかけとなった」、「○、△の評価はしやすく普段の授業で活用できた」等の意見があった。公開授業研究会参加者に対するアンケート結果では、「教員同士の情報共有、子どもの評価の参考、授業の改善に役立ちそうだから」、「子ども一人一人の学びに対して細かな評価をすることができる。これをもとに子ども自身の自己評価にも繋がれると思うから」、「指導案上に記載する実践を積み重ねることで児童生徒の評価記録が蓄積されていくと共に、年度を超えても財産として残っていくと考えたから」、「支援学級の集団授業では、交流に出ている児童につなげなければいけない教員がいて、自分の担当している児童の様子を見ることができないことがあるので、どうだったかという振り返りを伝える手立てになるから」という意見があった。

このことから、学習指導の在り方を振り返り指導改善に生かすことができると言える。MT と ST との連携が深まった点は大きな成果につながった取組みということがわかった。

「見える化ステップ」の成果

「見える化ステップ」を用いることで、何を、いつ、どのように評価するのが明確になり、計画的に学習評価を行うことで授業成果の根拠となる手続きを明確にすることができた。

「学習評価の見える化」を実践した成果は、子供の成長がより具体的に見えるようになったこと、授業者にとって授業の改善が見えやすくなったこと、授業者が伝えたい目標が ST にとっても見えやすくなったことである。「見える化ステップ」を用いることで、今まで不透明だった授業の目標や評価が明確になり、子供たちがどのように学ぶことができたのか、成長したのか見定めることにつながるとわかった。このことから本研究の「見える化ステップ」は評価の信頼性、妥当性を高める手続きとして一定の効果があったと言える。

今後の課題

本研究を通して、見える化ステップシートを活用した評価に取り組むことで、観点別学習状況の評価の3観点にある「知識・技能」、「思考・判断・表現」について評価を深めることができた。しかし、「主体的に学習に取り組む態度」における評価を深める取組みについては、改善の余地があると言える。3観点の評価をより深めていくことで、児童生徒の学びを深める学習の展開を期待できる。

第 2 章 學習指導案集

小学部 音楽科 Bグループ 学習指導案

単元名「つくろう、自分たちの音」

授業者 小池 るみ、武田 幸子

1. 対象

小学部児童4名（2年1名、4年2名、6年1名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 4校時（10時50分～11時35分）、音楽室

3. 単元設定の理由

小学部では実態別縦割りグループで3グループに編成している。本グループは、2年生1名、4年生2名、6年生1名の計4名の児童で構成され、特別支援学校学習指導要領小学部音楽科の2段階の内容に取り組んでいる。これまで、曲や楽器のリズムを感じて体を動かしたり楽器を鳴らしたりする活動や、トーンチャイムを使って歌に合わせて演奏する活動に取り組んできた。速度や強弱を意識して足音を立てないように歩いたり、ゆっくり楽器を鳴らしたりする等、曲や音を聴いて表現する児童がいる。また、友だちの表現を真似して取り組む児童、自由に表現する児童等、実態は様々である。

本単元では、小学部音楽科2段階の内容「音楽づくり」を設定している。児童たちはタンバリンやコンガ、鈴等、これまでいろいろな楽器に触れてきて、いろいろな鳴らし方をしてきた。そこで、楽器の音の違いに気付いたり、曲を聴いて音を選んだりする等の活動から音遊びの楽しさ、音を出す楽しさ、表現する楽しさを感じてほしいと思い、この単元を設定した。

児童の実態として体や楽器を通して表現することは得意であるが、どのように表現したのか言葉や文字で表現することが難しい。そのため、言葉等での発表ではなく児童の動きや表情から表現を見取るようにする。本単元では、コンガやタンバリン等の打楽器、トーンチャイムや単音グロッケンといった有音程の楽器を用意する。どの楽器も今年度扱ったことがあるため、音の出し方が分かりやすく活動に取りかかりやすいと考えた。


4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none">・身の回りの様々な楽器の音の特徴に気付く（知）・音を選んで表現する（技）	<ul style="list-style-type: none">・音で表現することについて思いをもつ	<ul style="list-style-type: none">・音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：・楽器当てクイズで、音を聴いて楽器を答えている（知） ・強弱を意識した鳴らし方、リズムを意識した鳴らし方等、 いろいろな工夫をして楽器を扱っている（技）</p> <p>B：・楽器当てクイズで、音を聴いて選択肢から楽器を答えている（知） ・いろいろな楽器を選んで鳴らしている（技）</p> <p>C：・楽器を選んで鳴らそうとしない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音の出し方 ・楽器を選んでいる様子 ・音を聴いている様子
思考・判断・表現	<p>A：・音遊びで、教員の音の出し方（強弱）に着目して表現している ・歌詞からイメージして楽器を選んだり、音の出し方を工夫したりしている（例「大きい」という歌詞から大きな音が出る楽器を選んだり、大きな音を出したりする）</p> <p>B：・教員の出している音を聴いて、一緒に鳴らしている ・音楽を聴いて自分で使いたい楽器を選んで鳴らしている</p> <p>C：・楽器を選ばない。楽器に触ろうとしない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音の出し方 ・楽器を選んでいる様子 ・音を出している様子 ・発表の場面 ・発言
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・音遊びや音づくりの活動を楽しんでいる ・自分の音や友だちの音を聴いている ・自分で楽器を選んで音を出している 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器を選んでいる様子 ・発表の場面 ・音を出している様子 ・音を聴いている様子

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○			
		知	技	思	主
		知識	技能		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器当てクイズ ・MT の楽器の鳴らし方を見て順番に鳴らす(以下音リレー) ・合図を聞いて自由に楽器を鳴らす(以下ドラムサークル) ・「かぼちゃ」をみんなで演奏する ・「おとのマーチ」を聞いたり、演奏したりする ・「こすれこすれ」を歌ったり、自分や友だち先生の体をこすったりする 	○			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器当てクイズ、音リレー、ドラムサークルをする ・「かぼちゃ」をみんなで演奏する ・「おとのマーチ」を聴いて使いたい楽器を決めて発表する ・「こすれこすれ」を歌ったり、自分や友だち、先生の体をこすったりする 			○	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器当てクイズ、音リレー、ドラムサークルをする ・「かぼちゃ」をみんなで演奏する ・「わくわくキッチン」を聞いたり、演奏したりする ・「こすれこすれ」を歌ったり、自分や友だち、先生の体をこすったりする 		○		
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器当てクイズ、音リレー、ドラムサークルをする ・「かぼちゃ」をみんなで演奏する ・「わくわくキッチン」を聴いて使いたい楽器を決めて発表する ・「こすれこすれ」を歌ったり、自分や友だち先生の体をこすったりする 			○	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器当てクイズ、音リレー、ドラムサークルをする ・「かぼちゃ」をみんなで演奏する ・「おとのマーチ」か「わくわくキッチン」のどちらかを選び、使いたい楽器を決めて発表会をする ・「こすれこすれ」を歌ったり、自分や友だち先生の体をこすったりする 			○	

注：(知) … 「知識・技能」， (思) … 「思考・判断・表現」， (主) … 「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 楽器を見たり、音を聴いたりすると「○○」と楽器の名前を答える（知） 扱いたい楽器を選んで鳴らしている（技） 教員の手本のリズムを聴いて楽器を鳴らしている（思） 曲が流れると自分から歌ったり踊ったりする（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 音を聴いて楽器の名前を答える（知） 自分で使いたい楽器を選び、鳴らしている（技） 「大きい」等の歌詞から楽器を選んだり、鳴らしたりする（思） 自分なりのイメージに向かって音楽づくりに取り組む（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 疲れやすいため椅子に座って休憩をとりながら活動の様子を見ていてもよいという言葉かけをする 歌詞がイメージできるイラスト付きの視覚支援を提示する
B	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音の違いに気付いている（知） 扱いたい楽器を選んで鳴らしている（技） 友だちの様子を見て楽器を鳴らしている（思） 楽器を鳴らす、音を聴いて体を動かす等進んで学習に取り組む（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 音を聴いて選択肢から楽器を答える（知） 楽器を選び、鳴らしている（技） 友だちの様子を見たり、自分で選んだりして鳴らしたい楽器を決めて音楽に合わせて鳴らしている（思） 自分の気に入った楽器を見つけ、音楽に合わせて鳴らし、音楽づくりに取り組む（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞がイメージできるイラスト付きの視覚支援を提示する 言葉が出にくいことがあるので言いたいことの意図をくみ取り、代弁する
C	<ul style="list-style-type: none"> 楽器を見たり、音を聴いたりすると「○○」と答える（知） 強弱や速度に着目して楽器を鳴らしている（技） 教員の手本のリズムを聴いて楽器を鳴らす活動では、自分のオリジナルリズムを作って楽器を鳴らすことがある（思） 楽器を鳴らす、音を聴いて体を動かす等進んで学習に取り組む（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 音を聴いて楽器の名前を答える（知） 鳴らし方（強弱速度等）を工夫している（技） 「大きい」「たまねぎトントン（切る音）」等の歌詞から楽器を選んだり、鳴らしたりする（思） 自分なりのイメージに向かって音楽づくりに取り組む（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとやりとりをするときは様子を見る。言いたいことが伝わらない等、本児がいら立つ前に教員が間に入り、お互いの言いたいことを確認する 歌詞から音の出し方を考えさせるような言葉かけをしたり、視覚支援を用意したりする 歌詞がイメージできるイラスト付きの視覚支援を提示する
D	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音の違いに気付いている（知） 扱いたい楽器を選んで鳴らしている（技） タンバリンやコンガを叩いたり、面をこすったりして音を出している（思） 気に入った音を見つけると音を出し続ける（思） 楽器を鳴らす、音を聴いて体を動かす等進んで学習に取り組む（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音の違いに気付いている（知） 楽器を選び、鳴らしている（技） いろいろな楽器に触れ、鳴らしたい楽器を決めて音楽に合わせて鳴らしている（思） 自分の気に入った楽器を見つけ、音楽に合わせて鳴らし、音楽づくりに取り組む（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードに注目することが難しいためSTが個別に言葉かけ、指さし、手元に視覚支援を提示する 歌詞がイメージできるイラスト付きの視覚支援を提示する

注：（知）…「知識・技能」，（思）…「思考・判断・表現」，（学）…「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・「わくわくキッチン」を聴いて楽器を選び、音に合わせて表現する（思考・判断・表現）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
10:50	1 はじまりのあいさつ 2 本時の学習内容を知る 3 楽器当てクイズをする ・授業者が鳴らした楽器が何か答える	※活動と活動の間に「♪主よ、人の望みの喜びよ」を流す。その間は、水分補給の言葉かけをする。授業者は次の活動の準備をする ・授業者の手元が見えないようにする ・児童Dは視覚支援を用意し、指さし等で答えられるようにする
10:57	4 音・楽器遊びをする ○音リレーをする ①目の前に提示されたパーランクーを叩く ②好きな楽器を選び、授業者のリズムを順番に真似をする	・スペースマットで場所を示す ・授業者が順番にパーランクーを児童の目の前に提示し、叩くよう促す ・児童の様子を見て、次に誰が音を出すか指さしで示す
11:05	○ドラムサークルをする ①楽器の場所に移動する ②「1、2、3、4 ○○（楽器）どうぞ」の合図で指示された人は自由に音を出す ③「1、2、3、4 ストップ」で止める ④8拍子の間に隣の楽器に移動する ①～④を繰り返す	・楽器は初め2種類（トライアングル、パーランクー）置いておく。活動に慣れてきたら2種類から4種類（トライアングル、パーランクー、ギロ、単音グロッケン）に楽器を増やす
11:10	○「♪かぼちゃ」の演奏をする ①順番を決める、楽器を選ぶ ②歌に合わせてみんなで演奏する	・自分の席で活動する ・楽器を鳴らすタイミングが分かるように顔写真をホワイトボードに貼っていく
11:15	5 音づくりをする ㊦ ①「♪わくわくキッチン」を聴く ②歌詞「とんとんとん」「こねこねぽん」等をどの楽器で表すか考える ③発表する	・「♪わくわくキッチン」は歌詞がイメージしやすいもののみ授業で扱うため、編集したものを使用する ・①では、歌に合ったイラストを見てイメージがもてるようにする

11:30	<p>6 歌&体遊びをする</p> <p>①2人組になって「♪こすれこすれ」の歌詞「こすれ」の部分で友だちや先生の体をこする</p> <p>②ペアを変えて①の活動をする</p>	<p>・②では児童Cにシートを渡し、選んだ楽器を視覚化する。また、選んだ楽器をどのように鳴らすか言葉かけをして考えるきっかけをつくる</p> <p>・授業者は全員と1回はペアを組む。ウィンドブレーカーを着て活動し、こすったときのシャカシャカ音を楽しめるようにする</p>
11:35	7 おわりのあいさつ	<p>・「♪when your heart makes a wish」を流し、学習の終わりの合図とする</p>

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D
評価				
備考				

単元名「曲を聴いて楽しもう」

授業者 長谷川 博基、古謝 美沙紀

1. 対象

小学部児童6名（4年1名、5年3名、6年2名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 4校時（10時50分～11時35分）、集会室

3. 単元設定の理由

小学部では、実態別縦割りグループで、3グループに編成している。本グループは、4年生1名、5年生3名、6年生2名の6名の児童で構成され、特別支援学校学習指導要領小学部音楽科の3段階の内容に取り組んでいる。グループの児童の中には休み時間にお気に入りの曲を聞いたり、曲に合わせて歌って、コンサートをしたりする児童もいて、日常的に音楽に親しんでいる。音楽の授業では、身体表現の内容として、拍子の異なる曲に合わせて、リズムを口ずさんだり、ダンスをしたり、歩いたりすることを行い、2・3・4拍子の曲の拍の違いを体感してきた。歌唱の内容では、コロナ禍で声を出す経験が少なかったため、様々な声遊びやわらべうたを通して声を出すことの楽しさを味わったり、音楽に合わせて友だちと一緒に体を動かしたりする活動に取り組んだ。音楽づくりの内容では、「虫のこえ」の曲に出てくる虫の声を再現する活動を行った。本物の虫の鳴き声を聞き、強弱やリズム等の音の特徴をもとに楽器を選び、その楽器の鳴らし方を考えた。また、器楽の内容では、和太鼓の演奏に取り組んだ。教員や友だちの模倣からはじめ、今では自分でリズム譜を用いてリズムを作成し、リズム打ちを楽しむことができるようになっている。

これまでの学習をもとに、曲をじっくり聴き、その楽しさをさらに体感してほしいと考え、本単元を設定した。本単元では、「行進曲」と「おどるこねこ」の鑑賞を行う。どちらの曲も演奏されている楽器の音が聴きとりやすく、旋律の変化が分かりやすい構成となっている。

本単元の指導に当たって、曲を聴き、表現する場面では、ペープサートや猫のパペット、リボン等を用意することで全員が曲を聴き、自分の得意とする方法で表現できる環境を設定する。また、表現の様子は撮影し、振り返りで見ること、友だちの様子も知ることができるようにする。友だちと感想を交流したり、曲想を考えたり、表現したりする中で、曲の表す世界観を味わえるようにしていきたい。

4. 単元目標


観点	知識	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	・ 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くことができる	・ 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見出して聴くことができる	・ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味を持つとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識	<p>A：・ バイオリンの音をもとに猫がお話しているなどと呼びかけとこたえの関係に気付いている（バイオリンの音が連続で聞こえるところが、お話しているみたいと発言する等）</p> <p>・ 絵の並び替えから旋律の繰り返しがあることに気付いている（また同じ音楽が聞こえてきたから、始めと同じ絵を選ぶ等）</p> <p>B：・ 猫の鳴き声、鳴き声を表すバイオリンの音が聞こえたら挙手をしている</p> <p>・ 曲に合わせて、絵の並び替えをしている</p> <p>C：・ 曲を聴かない。絵の並びかえをしない</p>	<p>曲を聴く様子</p> <p>バイオリンの音への反応</p> <p>絵の並び替え</p> <p>発言</p>
思考・判断・表現	<p>A：・ 音楽を形づくっている要素（速度、旋律、反復、呼びかけとこたえ、変化など）をもとに考えたり、動いたりしている</p> <p>【例】・ 鳴き声を表すバイオリンの演奏をもとに猫の様子を考えてパペットなどを動かしている（猫が会話をしている様子を表現する等）</p> <p>・ 反復の仕組みを捉えて旋律の変化に合わせてパペットや体を動かしている（始めの旋律に戻ると動きも元に戻る等）</p> <p>・ 速度の変化をもとに犬が出てきた時の様子を考えるとパペットや体を動かしている（犬から逃げる様子を表現する等）</p> <p>B：・ 猫の様子を考えながら、パペットなどを動かしている</p> <p>・ 曲の変化に合った動きを考えながら、パペットや体を動かしている</p>	<p>曲を聴く様子</p> <p>動きを考えている様子</p> <p>動き（パペット・体など）</p> <p>グループ活動</p> <p>発言</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・犬が出てきた時の様子を考えてパペットや体を動かしている <p>C: ・曲を聴かない。グループ活動に参加しない。曲の変化に合わせて動かない</p>	
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしたり、口ずさんだりして楽しんで曲を聴いている ・音に耳を傾けて曲を聴いている ・曲の変化に合わせて、絵を並び替えようとしている ・曲に合った動きを考えようとしている ・友だちと一緒に曲の変化に合った動きをしようとしている ・曲について自分の考えを伝えようとしている 	<p>曲を聴く様子 (表情・発言・動き) 絵の並び替え 動きを考えている様子 動き (パペット・体など) グループ活動 発言</p>

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
1	<p>【和太鼓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2グループに分かれて演奏をする（リズム指定） <p>【鑑賞（行進曲）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器と出てくる音に注目して、曲を聴く 	○		
2	<p>【和太鼓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2グループに分かれて演奏をする（リズム指定） <p>【鑑賞（行進曲）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律に注目して、曲を聴く ・ 旋律に合わせて、体を動かす 		○	
3	<p>【和太鼓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2グループに分かれて演奏をする（リズム自由） <p>【鑑賞（おどるこねこ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴き声、鳴き声を表す楽器（バイオリン）に注目して、曲を聴く ・ 旋律に合わせて、絵を並び替える 	○		
4 (本時)	<p>【和太鼓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2グループに分かれて演奏をする（リズム自由） <p>【鑑賞（おどるこねこ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律に合わせて、パペットや体を動かす 		○	

注：(知) …「知識」，(思) …「思考・判断・表現」，(主) …「主体的に学習に取り組む態度」

※和太鼓の演奏は別単元で評価する

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム譜を見て、様々なリズム打ちをすることができる(知) ・虫の鳴き声に似ている楽器を選び、演奏することができる(思) ・休み時間に好きな曲を聴いていた。和太鼓では様々なリズムをつくらうとすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・猫の鳴き声を表すバイオリンの音や旋律の変化に気付くことができる(知) ・曲の変化に合わせてパペットなどを動かすことができる(思) ・曲の変化に合わせて、絵を並び替えようとするすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の前に、楽器や旋律の変化など注目するポイントを伝える ・絵やパペットなどの操作を取り入れ、体以外の表現もできるようにする
B	<ul style="list-style-type: none"> ・模倣して、様々なリズム打ちをすることができる(知) ・虫の鳴き声に似ている楽器を選び、演奏することができる(思) ・休み時間に好きな歌を歌っていた。曲を聴くとギターを弾く真似をしていた(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・猫の鳴き声を表すバイオリンの音や旋律の変化に気付くことができる(知) ・曲の変化に合わせて体を動かすことができる(思) ・体を動かしたり、口ずさんだりしながら曲を聴くことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・疲れた様子が見られたら休むよう促す ・良い体の表現を取り上げ、全体に共有したり、理由を聞いたりする
C	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム譜を見て、様々なリズム打ちをすることができる(知) ・虫の鳴き声に似ている楽器を選び、演奏することができる(思) ・和太鼓ではリズム譜をつかって様々なリズムをつくらうとすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・猫の鳴き声を表すバイオリンの音に気付くことができる(知) ・犬が出てきた時の様子を考えてパペットなどを動かすことができる(思) ・曲の変化に合わせて、絵を並び替えようとするすることができる。曲に合ったパペットなどの動きを考えようとする(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の変化を視覚化できるように旋律に合わせて絵の並び替えができるようにする ・友だちの良い表現を伝えるようにする
D	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム譜を見て、様々なリズム打ちをすることができる(知) ・虫の鳴き声に似ている楽器を選び、演奏することができる(思) ・3拍子のリズムに合わせて、バンブーダンスをしようとする(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・猫の鳴き声を表すバイオリンの音に気付くことができる(知) ・犬が出てきた時の様子を考えてパペットなどを動かすことができる(思) ・曲の変化に合わせて、絵を並び替えようとする(学)。曲に合ったパペットなどの動きを考えようとする(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の前に、楽器や旋律の変化など注目するポイントを伝える ・行進曲の鑑賞では旋律の変化に合わせて友だちと一緒に体を動かせるようにする
E	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム譜を見て、様々なリズム打ちをすることができる(知) ・虫の鳴き声に似ている楽器を選び、鳴らし方を工夫して演奏することができる(思) ・虫の声探しでは、自分の考えを積極的に友だちに伝えようとする(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・猫の鳴き声を表すバイオリンの音や旋律の変化に気付くことができる(知) ・曲の変化に合わせてパペットなどを動かすことができる(思) ・楽器の音や旋律の変化を意識して、曲を聴くことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い表現を取り上げ、全体に共有する ・表現の理由を聞き、音楽を形づくっている要素と関連付けられるようにする
F	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム譜を見て、様々なリズム打ちをすることができる(知) ・虫の鳴き声に似ている楽器を選び、演奏することができる(思) ・3拍子のリズムに合わせて、バンブーダンスをしようとする(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の変化に気付くことができる(知) ・犬が出てきた時の様子を考えてパペットなどを動かすことができる(思) ・曲の変化に合わせて、絵を並び替えようとする(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の前に、鳴き声や旋律の変化など注目するポイントを伝える ・絵やパペットなどの操作を取り入れ、体以外の表現もできるようにする

注：(知) …「知識」，(思) …「思考・判断・表現」，(学) …「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・曲や演奏の楽しさを見出して聴いたり、パペットや体を動かしたりすることができる
（思考・判断・表現）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
10:50	○あいさつ ○本時の流れを知る	
10:55	○和太鼓を演奏する ・2グループに分かれる （ABCとDEF） 《前半》 ・地打ち…ABC、上打ち…DEF ・上打ちは自分で考えたリズムを叩く 《後半》地打ち、上打ちの役割を交代して 行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ST：B児を中心に適宜、支援する ・和太鼓は地打ち1台、上打ち1台使用する ・リズム譜を使用して、上打ちのリズム作りができるようにする ・それぞれのグループから一人ずつ順番に叩くようにする
11:10	○おどるこねこの鑑賞をする ・前時の振り返りをする ・曲を聴く ・猫の動きを表現する ① 使う道具を考える ② 曲を聴きながら動きを考える ③ 表現する	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で並べ替えた絵を提示しながら、旋律の変化をもとに猫の様子を考えたことを振り返るようにする ・パペットなどを使用することで猫の動きを考えたり、表現したりできるようにする ・旋律の変化に注目できるように、旋律の繰り返しに気付いている児童の発言や動きを他の児童にも伝えるようにする ・必要に応じて「ここでは猫は何をしているのかな。」「曲の最後はどうなるのかな。」などの言葉かけをする ・ST：動画撮影
11:30	○振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影した動画を見ながら、振り返りをする ・呼びかけと答え、旋律の反復を捉えて猫の様子を表している児童の様子を全体で共有する
11:35	○あいさつ	

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F
評価	
備考	

単元名「自分の音楽をつくろう」

授業者 竹本真弓 別府さやか 白取和甫

1. 対象

中学部生徒9名（1年3名 2年4名 3年2名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 4校時（9時45分～10時35分）、集会室

3. 単元設定の理由

本グループは1年生3名、2年生4名、3年生2名で構成されている。本グループの生徒は教員の説明を聞き、教員や周りの友達の動きを見聞きし、何度か練習することで歌を斉唱したりダンスをしたりできる。また、体を動かすことが好きな生徒が多い。

本単元は特別支援学校学習指導要領中学部音楽科1段階のA表現、音楽づくりの分野の内容を元に取り組んでいる。これまで、A表現の中の「歌唱」「器楽」「身体表現」の活動に取り組んできた。「歌唱」では、裏声を出す練習や季節の歌を歌う活動を行ってきた。音楽が流れたら体を揺らしたり歌声の大きさや声色を変えたりして自分なりに歌うことができるようになった。「器楽」では「アンダーザシー」を演奏した。各生徒の実態によって使用する楽器を設定し、「周りの音と合わせて演奏する」という同じ目標で練習し、合奏することができた。「身体表現」では、音楽に合わせて自由にその曲のイメージを体で表現する活動を行った。クラシック音楽や童謡、ディズニー音楽など様々な種類の音楽を、曲調や歌詞を元にイメージしたことを各々が自由に表現し、共有し合うことができた。本単元の音楽づくりも、四分音符、四分休符、八分音符を使い、4/4拍子のリズムをつくり、友達の作ったリズムとつなぎ合わせて1つの音楽を作る活動を展開している。

「身体表現」や「音楽づくり」は生徒の自由な発想をもとに単元を構成している。学習集団の実態から、最初から自由に音楽を作るのは難しいと考え、使用する符号と拍子のみ設定した。学習指導要領の音楽づくりの目標には、「音遊びを通してどのように音楽を作るかについて発想を得ること」「音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと」を身に付けることができるよう指導することと記されている。自分の体や身の回りの物、楽器などを自由に鳴らす中でその物が持つ音に気付く。リズムを考え、それを繋ぎ合わせたり組み合わせたりすることで音楽になることに気付く。自分が見つけた音と、作り出した音楽を組み合わせ、自分だけの音楽を作り出してほしい。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音の響きやリズム・パターンのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付く（知） ・発想を生かした表現や思いや意図に合った表現をするために、設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける（技） 	<ul style="list-style-type: none"> ・音遊びを通してどのように音楽をつくるのかについて発想を得たり、音を音楽へと構成することについて思いや意図をもったりすることで、音楽づくりについての知識や技能を生かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：・$\frac{4}{4}$拍子の中で3つ以上（四分音符、八分音符、四分休符）のリズムを組み合わせて表現している（知）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に音の重なりについて考えながら楽器を鳴らしている（技） <p>B：・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを考え、ワークシートに表している。また、考えたりリズムを体（手や体の部位をたたく・足踏みする（以下同じ））や楽器を使って表現している（知）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出る音や演奏方法、音の重なりを考えて楽器を鳴らしている（技） <p>C：Bに達していない</p>	<p>行動 発言 ワークシート</p>
思考・判断・表現	<p>A：・様々な楽器や身の回りのものの音を鳴らし、音の鳴り方や鳴らし方を試している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたリズムを体や楽器だけでなく身の回りにあるものを使って表現できることに気づき、実践している（筆記用具や椅子、ファイル等） ・自分で考えた2小節分の音楽と友達の考えた2小節分の音楽の組み合わせを考え、友だちに伝えたり実践したりしている <p>B：・楽器を鳴らしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたリズムを表現するのに適した物（自分の体や楽器 	<p>行動 発言 ワークシート</p>

	等) を考え、実践している ・リズムや音を考え、つなぎ合わせて2小節の音楽をつくっている C : B に達していない	
主体的に学習に取り組む態度	・友達や教員を見て、自分から体や楽器を使ってリズムや音楽を表現している ・教員や友達と話し合い、自分で考えたリズムと友達が考えたリズムを組み合わせて音楽をつくっている。	行動発言

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○			
		知	技	思	主
		知識	技能		
1	自分の音楽をつくろう ～リズムをつくろう～		○		↓
2	自分の音楽をつくろう ～周りにあるものを使って音を鳴らそう～	○			
3	自分の音楽をつくろう ～2つ以上の楽器を鳴らそう！どんな音がするかな？～			○	
4	自分の音楽をつくろう ～グループで音楽をつくろう～	○			
5 (本時)	自分の音楽をつくろう ～発表しよう～			○	

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(主) …「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 手本となる教員や友達を模倣し、手拍子や足踏みでリズムを表している(知) 自分で考えたリズムを手拍子で表現している(思) 4拍子のリズムを見本や周りを見聞きし、同じように表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や教員の見本を見て4拍子のリズムを自分なりに考え、体(手や体の部位をたたき・足踏みする)や楽器を使って表現している(知) 自分で考えたリズムを表現するのに適した物(自分の体や楽器等)を考え、実践している(思) 友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> リズムを作るときにルールを個別に確認し、それに沿って作れるよう支援する 物を使って表現するとき作ったリズムと同じように音を鳴らせるか確認する

令和5年度 公開研究協議会
芸術チームの実践

B	<ul style="list-style-type: none"> ・手本となる教員や友達を模倣し手拍子や足踏みでリズムを表している(知) ・自分で考えたリズムを手拍子で表現している(思) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを見本や周りを見聞きし、同じように表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを2小節分考え、体(手や体の部位をたたく・足踏みする)や楽器を使って表現している(知) ・自分で考えたリズムを表現するのに適した物(自分の体や楽器等)を考え、実践している(思) ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの友達と一緒に活動できるよう適宜言葉かけする ・物を使ってリズムを表現する時に音の鳴り方や鳴らし方、リズムの表し方を一緒に確認する
C	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを手本を元に考え表現している(知) ・教員や友達の手本を元に、自分でリズムの表現方法を考え、実践している(思) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを見本や周りの音を見聞きし、見本と表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムをパターンを考えながら2小節分作り、体(手や体の部位をたたく・足踏みする)や楽器を使って表現している(知) ・自分の考えたリズムと友達のリズムの組み合わせ方を考え、自分の意見を伝えている(思) ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器だけではなく、音楽室にある様々な物を使ってリズムを表現できることを伝え、一緒に試す ・作ったリズムと同じように音を鳴らせるか確認する
D	<ul style="list-style-type: none"> ・手本となる教員や友達を模倣し手拍子や足踏みでリズムを表している(知) ・教員や友達が使っている物を見て、同じものを使って考えたリズムを表現している(思) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを見本や周りを見聞きし、同じように表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを2小節分考え、体(手や体の部位をたたく・足踏みする)や楽器を使って表現している(知) ・自分で考えたリズムを表現するのに適した物(自分の体や楽器等)を考え、実践している(思) ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えた時でもポジティブに考えられるような言葉かけをする ・物を使って表現するときに作ったリズムと同じように音を鳴らせるか確認する
E	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたリズムを体や楽器で表現すると元のリズムとずれることがある(知) ・パターンを考えながら2小節分リズムを考えることができる(思) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを見本や周りの音を見聞きし、自分なりに表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたリズムどおりに体(手や体の部位をたたく・足踏みする)や楽器を使って表現している(知) ・自分の考えたリズムと友達のリズムの組み合わせ方を考え、自分や友達の意見を元に音楽をつくっている(思) ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを整理できるよう聴き取り、その考えに沿った表現方法が見つかるようアドバイスする ・物を使ってリズムを表現する時にリズムの表し方を一緒に確認する
F	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを考え、体を使って表現しているが違うリズムになることがある(知) ・自分で考えたリズムを体を使って表現している(思) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを見本や周りを見聞きし、自分なりに表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを教員と一緒に2小節分考え、体(手や体の部位をたたく・足踏みする)や楽器を使って表現している(知) ・考えたリズムを表現するのに適した物(自分の体や楽器等)を考え、実践している(思) ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りテンポを合わせてリズムを表現できるよう支援する ・物を使ってリズムを表現する時に音の鳴り方や鳴らし方、リズムの表し方を一緒に確認する
G	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを考え、教員が指示した方法で表現している(知) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムとその表現方法を考え、実践している(思) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを見本や周りを見聞きし、同じようにリズムを表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを2小節分考え、体(手や体の部位をたたく・足踏みする)や楽器を使って表現している(知) ・自分の考えたリズムと友達のリズムの組み合わせ方を考え、自分の意見を伝えることができる(思) ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合いの時に自分の意見を伝えたり他のメンバーに意見を聞いたりして先導してグループの音楽づくりができるよう支援する ・物を使って表現するときに作ったリズムと同じように音を鳴らせるか確認する
H	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを、見本を見て自分なりに模倣し、表現している(知) ・考えた$\frac{4}{4}$拍子のリズムを、体を使って(手をたたく、足踏みする)表現している(思) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを見本や周りを見聞きし、自分なりに表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを教員と考え、体(手や体の部位をたたく・足踏みする)や楽器を使ってリズムを表現している(知) ・考えたリズムを表現するのに適した物(自分の体や楽器等)を考え、実践している(思) ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に$\frac{4}{4}$拍子のリズムや何を使って表現するかを考える ・考えたリズムを言葉や手拍子で一緒に確認する ・物を使ってリズムを表現する時に音の鳴り方や鳴らし方、リズムの表し方を一緒に確認する
I	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを、見本を見て自分なりに模倣し、表現している(知) ・考えた$\frac{4}{4}$拍子のリズムを、体を使って(手をたたく、足踏みする)表現している(思) ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを見本や周りを見聞きし、自分なりに表現している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{4}{4}$拍子のリズムを2小節分考え、体(手や体の部位をたたく・足踏みする)や楽器を使って表現している(知) ・自分で考えたリズムを表現するのに適した物(自分の体や楽器等)を考え、実践している(思) ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたリズムを言葉にして、リズムが取りやすいようにする(タン タタ ウン) ・物を使ってリズムを表現する時に音の鳴り方や鳴らし方、リズムの表し方を一緒に確認する

注：(知) … 「知識・技能」， (思) … 「思考・判断・表現」， (学) … 「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・グループで考えた音楽を表現するのに適した物（自分の体や楽器等）を考え、実践している（思）
- ・友達と協力して自分たちで考えた音楽を演奏している（学）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
9:45	○あいさつ ○リズムをまねしよう ・教員の表現した体を使った $\frac{4}{4}$ 拍子のリズムを模倣する	・メトロノームを使い、カウントをとりやすくする ・模倣が難しい生徒にはSTがつき、一緒に行う
10:00	○グループで音楽をつくろう（前回の続き） ・グループに分かれて行う （1グループ3人、3グループ） ① 一人ひとり作ったリズムを組み合わせたり繋げ合わせたりする ② 使用する物を決める（体の部位や集会室内にあるもの、楽器など） ③ 練習する	・前回の続きから行えるよう支援する ・生徒が自分から発信したり全員が意見を言えたりできるよう必要に応じて言葉かけする ・体の部位や楽器、集会室内にある物や楽器を使い、楽譜のどの部分に何を使って表現するか、グループ全員で考えられるよう支援する ・グループで合わせる時に楽譜通りに同じリズムで表現できるようカウントをとったり言葉かけしたりする
10:20	○発表 ・1グループずつ順番に発表する ・聴いていた人は感想を伝える	・聴いている人は静かに聴くよう言葉かけする（音を立てずに体を動かすのは可） ・聴いている人は感想を発表したグループに伝えることを前もって伝える
10:30	○ふりかえり ・今までやってきた①～④までの授業内容を振り返る ①手拍子や足を鳴らして表現した ②体の部位や音楽室にあるものを使って表現した ③楽器を使って表現した ④全部合わせて表現した	・①～④をどういう活動で行ってきたのか質問しながら振り返る
10:35	○あいさつ	

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G	H	I	J
評価					
備考					

単元名「続・マジカルミュージックワールド～自分だけの表現を探して～」

授業者 太等佐有、仙宅元紀

1. 対象

中学部生徒 10名（1年3名、2年3名、3年4名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 2校時（9時45分～10時35分）、多目的室

3. 単元設定の理由

中学部では縦割りグループで授業を行っており、音楽の授業は2グループで編成している。本グループは、特別支援学校学習指導要領中学部音楽科の2段階の内容の「音楽づくり」に取り組んでいる。

生徒たちは音楽が大好きで活動に積極的であり、授業中は楽しく盛り上がり過ぎて手を焼いてしまうこともあるほどである。これまでの様々な活動を通して、みんなの動きや声を真似したり合わせたりすることにも慣れてきている。ピアノや歌を趣味としている生徒や、これまでの音楽の授業で経験を積んだ生徒が多く、学習集団としてまとまりのあるグループである。前期は主として「歌唱」に取り組み、男子生徒の多くが変声期を迎えて安定してきたことから、初めて3部合唱にも取り組んだ。歌唱の練習の中では、リズムやハーモニーも感じながら合わせることができるようになってきている。

今年度は11月に文化祭があり、中学部のステージは『マジカルミュージックワールド～自分だけの歌を探して～』と題して、主人公たちが「自分だけの歌」を探しに行き、いろいろな出会いを通して、自分だけの輝く宝物（歌）を見つけるというお話であった。そこには心の中にみんな違った輝くものがある、それを表現すればいいのだというテーマが隠されていた。合奏やダンスなどを中学部全員で楽しみながら、恥かしさや緊張も乗り越えて、それぞれがのびのびと表現し、充実感を味わうことができた。そのように、表現することに前向きになっているタイミングで、11月～12月に「身体表現」の授業では、曲想やリズムをとらえて自由な表現をすることができた。その経験を生かして、さらにオリジナルの「音楽づくり」につなげていきたいと考えた。

個々の自由な発想から音楽を紡いでほしい、また、変容をする前の生徒たちの状態を捉えてから単元計画につなげたいと考え、あえて最初は教員が教え過ぎずに、ゼロから自由にアイデアを膨らませ、自分たちの力で新しいものを作り出すという喜びを味わってほしいと考えている。

1人だと何から始めてよいか、戸惑ったり恥かしがったりする生徒もいるが、グループやペアの活動だと、みんなで楽しみたいという思いから、一歩踏み出せる生徒も多い。生徒たちみんなが認め合える関係性があるなかで、伸び伸びと「自分だけの表現」をみつけてほしい。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	いろいろな音やリズム・パターンの違いや組み合わせの面白さに気づき、音楽づくりの発想を得る	設定した条件に基づいて、音を音楽へと構成することについて、思いや意図をもって表現する	主体的に音楽づくりに関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わう

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：Bを満たした上で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム・パターンと全体の調和がとれている <p>B：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定のリズムを手拍子等で表現している【知】 ・2つ以上のパターンを組み合わせている(重なり、即興)【技】 <p>C：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定のリズムを刻んでいない。【知】 ・2つ以上のパターンを組み合わせしていない【技】 	演奏・発表 発言 ワークシート
思考・判断・表現	<p>A：Bを満たした上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽として全体の調和がとれている ・自分の思いや意図を表現につなげられている <p>B：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の構成について、自分なりの思いや意図をもっている 例)楽しいリズムで表現したい、即興演奏を取り入れたい、2人でかけ合いをしたい、フレーズを組み合わせたい等 <p>C：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに合わせているだけになっている ・音楽づくりから外れたところに着目している 	演奏・発表 発言 ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに考えた音を出そうとしている ・自分の考えを発言している ・自分の意見を書いたり発表したりしている ・友だちの表現について感想を述べている ・友だちの発言に答えたり、合わせようとしている ・友だちとの活動を楽しんでいる 	演奏・発表 発言 ワークシート 全体を通しての変容 表情

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○			
		知	技	思	主
		知識	技能		
1	1 2 / 1 1 ゼロから音楽をつくろう 自由な発想で表現を考えてみよう		○		
2	1 2 / 1 8 工夫をして音楽をつくろう フレーズを決めて友だちとのかけ合い			○	
3	1 / 1 5 さまざまな演奏から感じよう 他者の演奏をヒントに自分の表現を考える	○			
4	1 / 2 2 いろいろな音を組み合わせよう 楽器や身の回りのものを用いた演奏		○		
5 (本時)	1 / 2 7 音楽の構成と考えよう 繰り返しや展開を考えた演奏			○	

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(主) …「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな曲やリズムに親しみ、曲想の違いを理解している(知) ・自分の好きな曲から想起して、オリジナルのリズムを刻むことができる(思) ・音楽を友だちと楽しみたいという気持ちがあり、未経験なことには躊躇しがちだが、友だちとなら積極的である(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせ、音楽的な調和がとれた表現をしている(知) ・自分の思いや意図をもって表現する(思) ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法が思いつかないときには、知っている曲で例を示す ・自信が持てるように、できていることをその都度評価をする
B	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きを真似してリズムにのることができる(知) ・自分で発想することは苦手だが、友だちのリズムに即興で別のリズムを加えることができる(思) ・自信がない部分も多いが、自分のできる範囲で積極的に表現しようとする(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせている(知) ・自分の思いや意図をもって表現する(思) ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムのポイントになるところをおさえて、再現性のある表現にする ・即興性やノリの良さを生かす
C	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きを真似してリズムにのることができる(知) ・自分の好きな曲から想起して、オリジナルのリズムを刻むことができる(思) ・音楽を友だちと楽しみたいという気持ちがあり、発言にも積極的である(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせている(知) ・自分の思いや意図をもって表現する(思) ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じパターンだけに偏らならないように、別のヒントを示す ・自信が持てるよう、発言の良いポイントについて取り上げる

令和5年度 公開研究協議会
芸術チームの実践

D	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな曲やリズムに親しみ、曲想の違いを理解している（知） ・自分の好きな曲から想起して、オリジナルのリズムを刻むことができる（思） ・音楽を友だちと楽しみたいという気持ちがあり、未経験なことには躊躇しがちだが、友だちとなら積極的である（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせ、音楽的な調和がとれた表現をしている（知） ・自分の思いや意図をもって音楽の構成を考えて表現する（思） ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じパターンだけに偏らならないように、別のヒントを示す ・新しい楽器など本人の興味が向いていることのできるだけチャレンジさせる
E	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きを真似してリズムにのることができる（知） ・自分で発想することは苦手だが、一定のリズムを繰り返し、友だちと合わせることができる（思） ・自信がない部分も多いが、自分のできる範囲で積極的に表現しようとする（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせている（知） ・自分の思いや意図をもって表現する（思） ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じパターンだけに偏らならないように、別のヒントを示す ・本人の意図を把握して、いくつかのパターンを提示できるようにする
F	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな曲やリズムに親しみ、曲想の違いを理解している（知） ・得意のボイスパーカッションを入れる等して次々とアイデアを試すことができる（思） ・人前での恥ずかしさもあるが、表現を工夫することに意欲的である（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせている（知） ・自分の思いや意図をもって音楽の構成を考えて表現する（思） ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・良いアイデアは忘れないように記録しておき、想起できるようにする ・ポイントをおさえて再現ができるようにする
G	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな曲やリズムに親しみ、曲想の違いを理解している（知） ・ホウキを楽器にしてリズムを刻むなど自分のアイデアを試すことができる（思） ・ノリが良いことや盛り上がるのが好きで、変わったことにチャレンジしたが、発言にも積極的である（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせ、音楽的な調和がとれた表現をしている（知） ・自分の思いや意図をもって音楽の構成を考えて表現する（思） ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・激しい表現や興奮する表現に偏らないように留意する ・新しい楽器など本人の興味が向いていることのできるだけチャレンジさせる
H	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きを真似してリズムにのることができる（知） ・友だちと音を組み合わせながら、気に入ったリズムを繰り返すことができる（思） ・人前での恥ずかしさがあるが、みんなに楽しんでもらいたいという思いから積極性が出てきている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせている（知） ・自分の思いや意図をもって表現する（思） ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じパターンだけに偏らならないように、別のヒントを示す ・本人の意図を把握して、いくつかのパターンを提示できるようにする
I	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな曲やリズムに親しみ、曲想の違いを理解している（知） ・例やヒントがあれば、自分の好きな曲から想起して、オリジナルのリズムを刻むことができる（思） ・自分から発想することは苦手だが、友だちに声をかけて全体をまとめようとする（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせ、音楽的な調和がとれた表現をしている（知） ・自分の思いや意図をもって音楽の構成を考えて表現する（思） ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法が思いつかないときには、知っている曲等の例を示す ・自信が持てるように、できていることをその都度評価する
J	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな曲やリズムに親しみ、曲想の違いを理解している（知） ・自分のつくりたい音楽の構成を具体的に考えることができる（思） ・友だちと合わせるときに初めはできないと躊躇するが、積極的に表現したり自分のアイデアを発言したりすることができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音やリズム・パターンを組み合わせ、音楽的な調和がとれた表現をしている（知） ・自分の思いや意図をもって音楽の構成を考えて表現する（思） ・友だちと協働して新しい音楽を作り出す喜びを味わう（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたい表現があっても時間がかかりそうなどは、表現方法を簡略化できるように調整し、次回につなげる

注：（知）…「知識・技能」，（思）…「思考・判断・表現」，（学）…「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・自分の思いや意図を、自分の表現に生かすことができる（思考・判断・表現）
- ・友だちと協力して、自ら音楽表現を楽しむことができる（学びに向かう力、人間性等）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
9:45	○ <u>始めのあいさつ『こんにちはカデンツ』</u> ・「階名唱」で歌う（ドミソの和音を意識する） ・「こんにちは」でうたう ○『リズム』 ・リズム符を見ながら手拍子で表現する	・音量バランスの良い並び方を考えて事前に指定し、音量や安定感の薄いパートに教員が加わる・音程が外れている場合には手本を示し、もう一度やり直す ・リズムの特徴に着目させる
9:50	○ <u>歌唱『夢の世界を』</u> ・3パート合わせて歌ってみる（アカペラ）	・階名を確認してから、3パート一緒に歌い、足りないようなパートには教員が加わる ・必要があれば歌唱のポイントをフィードバック
9:55	○ <u>音楽づくり『音楽の構成を考えよう』</u> ④ ・前回までの振り返り ・ワークシート記入（曲の構成を考える）	・復習として、具体的なイメージを想起させ、表現にいかせるようにする ・自分の表現したい内容・曲の構成を記入させる（時間をかけ過ぎない程度）
10:05	・2～3人のグループに分かれて相談・練習 ④	・すべてのグループが発表できるように様子をみて時間を設定する。 ・お互いの表現を尊重できるように配慮する ・まだ悩んでいる生徒がいれば、これまでの表現から選ばせるか即興でおこなうようにする ・楽しむ姿勢を保ちつつ、興奮しすぎないように配慮する
10:15	・5グループの発表 ④	・それぞれが工夫したことに着目させる
10:25	・ワークシートの記入（感想）・発表 ④	・特に良い表現や工夫があったところを共有する
10:35	○ <u>終わりのあいさつ『さようならカデンツ』</u>	・『こんにちはカデンツ』と同様

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G	H	I	J
評価					
備考					

単元名「モダンテクニックを使って表現しよう」

授業者 水沼志穂、野口拓

1. 対象

高等部生徒7名 1年3名 2年3名 3年3名

2. 日時・場所

令和6年1月27日 2校時（9時45分～10時35分）、高等部A組教室

3. 単元設定の理由

本グループは、1年生3名、2年生3名、3年生3名の9名の生徒で構成され、特別支援学校指導要領高等部美術1段階の内容に取り組んでいる。本グループでは、自分の想いを言葉で相手に伝えることが難しい生徒もいるが、自分の伝えたいことを創作活動を通して表現しようとする姿が見られる。そこで今年度は「伝える」をテーマに美術の授業を行ってきた。「自分の思うおいしいリンゴ」を軽くて柔らかい紙粘土を使って表現する立体造形や、「自分の世界」をカタログや雑誌の切り抜きで表現するコラージュの授業に取り組んできた。表現したいことをうまく絵に描くことや修正することが難しいなどの理由で絵を描いて表現することが苦手な生徒も多い。また手先の不器用さから、はさみなどの道具の使用に苦手意識を持っている生徒が多い。しかし、自分の表現したいことを紙粘土やコラージュなどの素材を使うことで、失敗しても修正をしたり、試行錯誤したりしながら制作をしていた。題材では制作の過程で、素材からヒントを得ながら想像力を膨らませ、言葉にならない自分の思いを作品を通して表現する姿が見られた。美術の授業を通して、自分の伝えたいことを表現する楽しさや、作品を通して相手に伝える喜びを引き出し、今後の意欲的な表現活動へ繋げていきたいと考えている。

本単元は、特別支援学校高等部学習指導要領美術1段階「内容A表現」に基づいている。今回扱う主な題材は「形や色彩」を扱い、「モダンテクニック」の技法を取り入れている。モダンテクニックの技法では、絵画表現に苦手意識がある生徒でも身近な道具を使うことや手順が簡単なことで活動に見通しを持って取り組み、また偶然できる表現によって、発想や構想を広げながら作品作りができることが魅力であると考えた。今回は学校で使うカレンダーの絵をみんなで分担して作成する。今後、学校で使われるものや普段から目に留まりやすいカレンダーを題材にすることで生徒たちの作品作りへの意欲が高まると考えた。また、四季やイベント、学校の行事などから表したいことのイメージを膨らませやすく、生徒たちが主体的に活動に取り組めると考えた。今までは個人で作品を作っていたが、生徒9名でそれぞれの月のカレンダーを担当し、出来上がった作品を合わせることで1年間のカレンダーができあがる。個人での作品作りとはまた違う共同制作の達成感を味わってほしいと考え、この単元を設定した。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、技法の特徴について理解する（知識） ・技法によって用具の使い方を身に付け、表したいことに合わせて、技法や材料の特徴を生かして組み合わせ表す（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> ・モダンテクニックの技法を工夫し、自分の考えに合わせた模様を作ったり、活用したりすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく美術の活動に取り組み、創作活動の喜びを味わいながら表現の学習活動に取り組む

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：○モダンテクニックの模様の特徴を理解し、自分のイメージに近づけるために表現方法を工夫して作品を作っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに合わせた模様を作っている ・イメージをもとにコラージュをしている <p>B：○モダンテクニック（スパッタリング、吹き流し、スタンピング）の技法の名前とその模様をマッチングすることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モダンテクニック（スパッタリング、吹き流し、スタンピング）の技法を使って模様を作っている ○コラージュを使って作品を作っている <p>C：○モダンテクニック（スパッタリング、吹き流し、スタンピング、コラージュ）の技法を使わずに作品を作っている</p>	<p>行動観察 発言 生徒の作品 STの記録 作品カード</p>
思考・判断・表現	<p>A：○自分の作品のイメージに近づけるために表現方法を工夫しながら発想を広げて表現している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに合わせて技法を使い分けている ・自分の考えに合わせて色を使い分けている <p>B：○季節（12カ月）のイメージをふくらませ、それに合わせて色やモダンテクニックの模様から発想を広げて表現している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色を使って表現している（桜をピンクで表現する） ・モダンテクニックの技法を使って表現している（雪の様子をスパッタリングで表現する） ・混色したり、濃淡をつけたりしている ・複数の技法を組み合わせている <p>C：○季節（12カ月）のイメージではなく、自分の好きなものを表現している</p>	<p>作品カード ワークシート 生徒の作品 発言 行動観察 STの記録</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい作品を作ろうとしている ・鑑賞を通して自分の作品や友達の作品に使われている技法に気付いている ・友達の作品作りのアイデアを自分の作品に取り入れようとしている ・自分の表現したいことを作品づくりを通して相手に伝えようとしている 	<p>行動観察 発言 生徒の作品 ワークシート</p>

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○			
		知	技	思	主
		知識	技能		
1	「モダンテクニック～スタンピング～」 ・にじみの技法を学習	○	○		
2	「12カ月(カレンダー)のイメージをふくらませよう」 ・作品のイメージをふくらませる(行事、旬、植物など) ・イメージに使いそうなモダンテクニックを考える	○		○	
3 (本時)	「モダンテクニックで模様をつくろう」 ・モダンテクニック(スパッタリング、吹き流し、にじみ)の技法を使って模様をつくる		○	○	
4	「コラージュして作品を作ろう」 ・モダンテクニックで作った模様をコラージュしてカレンダーの絵を完成させる		○	○	
5	「鑑賞」 ・それぞれどんなカレンダーができたか鑑賞する			○	

注：(知) … 「知識・技能」， (思) … 「思考・判断・表現」， (主) … 「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・スパッタリングの模様の特徴を理解している(知) ・スパッタリングの技法を身に付けている(技) ・自分のイメージを単語やタイトルで表現することが多い(思) ・夢中になって作品作りに取り組むこともある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している(知) ・モダンテクニックの技法を使って作品を作ることができる(技) ・技法や色を使って発想を広げることができる(思) ・鑑賞を通して作品に使われている技法に気付くことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えたイメージを書いたプリントをすぐ確認できるように机の上に置く
B	<ul style="list-style-type: none"> ・吹き流しやスパッタリングの模様の特徴を理解している(知) ・吹き流しやスパッタリングの技法を身に付けている(技) ・自分の表現したことを相手に言葉で説明することができる(思) ・友達の制作の様子を見て自分の作品に取り入れている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している(知) ・モダンテクニックを使って表現方法を工夫しながら作品を作ることができる(技) ・技法や色を使って発想を広げ、テーマに沿って表現することができる(思) ・鑑賞を通して作品に使われている技法に気付くことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作りの過程で生徒が工夫していることを教員が聞き取る
C	<ul style="list-style-type: none"> ・スパッタリングや吹き流しの模様の特徴を理解している(知) ・スパッタリングや吹き流しの技法を身に付けている(技) ・自分の表現したいことを言葉で相手に伝えようすることもある(思) ・イメージを持ちながら作品作りに取り組めることもある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している(知) ・モダンテクニックの技法を使って作品を作ることができる(技) ・技法や色を使って発想を広げることができる(思) ・鑑賞を通して作品に使われている技法に気付くことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中に手が止まってしまっている時には作品のイメージを書いたプリントを教員と一緒に確認する

令和5年度 公開研究協議会
芸術チームの実践

D	<ul style="list-style-type: none"> ・スパッタリングや吹き流しの模様の特徴を知っている (知) ・スパッタリングの技法を身に付けている。吹き流しの技法は支援が必要なことがある (技) ・自分の表現したいことを問いかげられると答えることができる (思) ・作品のイメージを持ってそれに近づけられるように作品作りに取り組んでいる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している (知) ・モダンテクニックの技法を使って作品を作ることができる (技) ・技法や色を使って発想を広げることができる (思) ・鑑賞を通して作品に使われている技法に気付くことができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技法で使う材料や道具、やり方を確認できるように視覚的に提示した手順書を用意する
E	<ul style="list-style-type: none"> ・スパッタリングや吹き流しの模様の特徴を知っている (知) ・スパッタリングや吹き流しの技法を身に付けている (技) ・自分の表現したことを相手に言葉で説明することができる (思) ・作品のイメージを持ってそれに近づけられるように作品作りに取り組んでいる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している (知) ・モダンテクニックを使って表現方法を工夫しながら作品を作ることができる (技) ・技法や色を使って発想を広げ、テーマに沿って表現することができる (思) ・自分の表現したことを相手に言葉で説明することができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた季節のイメージをモダンテクニックで表現できるように模様の特徴を視覚的に分かるように提示する
F	<ul style="list-style-type: none"> ・スパッタリングの模様の特徴を知っている (知) ・スパッタリングの技法を身に付けている (技) ・自分の表現したいことを問いかげられると答えることができる (思) ・作品作りではこだわりを持って取り組む姿が見られる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している (知) ・モダンテクニックの技法を使って作品を作ることができる (技) ・技法や色を使って発想を広げることができる (思) ・鑑賞を通して作品に使われている技法に気付くことができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技法で使う材料や道具、やり方を確認できるように視覚的に提示した手順書を用意する
G	<ul style="list-style-type: none"> ・スパッタリングや吹き流しの模様の特徴を知っている (知) ・スパッタリングや吹き流しの技法を身に付けている (技) ・自分の表現したことを相手に言葉で説明することができる (思) ・作品のイメージを持ってそれに近づけられるように作品作りに取り組んでいる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している (知) ・モダンテクニックを使って表現方法を工夫しながら作品を作ることができる (技) ・技法や色を使って発想を広げ、テーマに沿って表現することができる (思) ・自分の表現したことを相手に言葉で説明することができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作りの過程で生徒が工夫していることを教員が聞き取る
H	<ul style="list-style-type: none"> ・スパッタリングや吹き流しの模様の特徴を知っている (知) ・スパッタリングや吹き流しの技法を身に付けている (技) ・自分の表現したことを相手に言葉で説明することができる (思) ・作品のイメージを持ってそれに近づけられるように作品作りに取り組んでいる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している (知) ・モダンテクニックを使って表現方法を工夫しながら作品を作ることができる (技) ・技法や色を使って発想を広げ、テーマに沿って表現することができる (思) ・鑑賞を通して作品に使われている技法に気付くことができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを膨らませられるように他の生徒が活動している様子を見られるように環境を設定する
I	<ul style="list-style-type: none"> ・吹き流しの模様の特徴を知っている (知) ・吹き流しの技法を身に付けている (技) ・自分の表現したことを相手に言葉で説明することができる (思) ・作品のイメージを持ってそれに近づけられるように作品作りに取り組んでいる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの技法と模様の特徴を理解している (知) ・モダンテクニックの技法を使って作品を作ることができる (技) ・技法や色を使って発想を広げ、テーマに沿って表現することができる (思) ・自分の表現したことを相手に言葉で説明することができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた季節のイメージをモダンテクニックで表現できるように模様の特徴を視覚的に分かるように提示する

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(学) …「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・モダンテクニック（スパッタリング、吹き流し、スタンピング）の技法を使って模様を作ることができる（知識・技能）
- ・モダンテクニックの模様から発想を広げることができる（思考力・判断力・表現力）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
9:45	<p>○始まりのあいさつ</p> <p>○前回までの授業を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習した技法の模様の特徴について確認する（吹き流し、スパッタリング、にじみ） ・自分の担当する月を確認する ・イメージをふくらませたプリントを見て今回自分が使う技法や色を確認する <p>○本時の活動内容を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを見て見通しを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード、TVが見える位置で3人1グループになるようになるように席を提示する ・生徒たちが興味を持って活動に取り組めるように、クイズ形式にして提示をする ・見通しが持てるように本時の流れをパワーポイントで提示する
9:55	<p>○準備（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具や材料を準備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で準備しやすいように道具や配置の写真をパワーポイントを使って提示する ・生徒たちが共有する道具（絵の具や型）は活動中にしやすいように教員が配置する
10:00	<p>○モダンテクニックで模様をつくろう（知・思）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台紙を選ぶ（色、形、サイズ） ・技法を選ぶ（スパッタリング、吹き流し、にじみ） ・作品に使う絵の具、材料、道具を選ぶ ・模様作りに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に技法を取り入れられるように、それぞれの技法のやり方の手順書を示す ・自分で考えた季節のイメージを確認できるように机の上に前回記入したプリントを用意する
10:25	<p>○片付け（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片付けを分担して取り組む A: 洗い場で絵の具や筆を洗う（3人） B: 新聞や絵の具、机を片付ける（6人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗い場が混雑しないように教員が様子を見ながら言葉がけをする
10:30	<p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時に使った技法、表現したものをその場で発表する（2～3人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒も鑑賞できるように作品を写真に撮り、スライドで提示する
10:35	<p>○終わりのあいさつ</p>	

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G	H	I	
評価					
備考					

単元名「コラージュで他己紹介！！～わたしの知らない自分～」

授業者 近藤 広和、菅谷 雄馬、平山 陽子

1. 対象

高等部生徒9名(1年3名 2年3名 3年3名)

2. 日時・場所

令和6年1月27日 2校時(9時45分～10時35分)、 高等部C組教室

3. 単元設定の理由

本グループは、1年生3名、2年生3名、3年生3名の9名の生徒で構成され、特別支援学校学習指導要領高等部美術1段階の内容に取り組んでいる。これまでの授業では、自分がイメージしたものを描いたり、紙を切ったり、のりで貼ったり、紙粘土で形作る等の授業に取り組んできた。また、作品のイメージをすぐに思いつく生徒もいれば、じっくり考えてイメージを膨らます生徒が混在している為、イメージを生み出すきっかけとして、ベルの合図で作品や制作活動を自由に観ながら対話できる時間を授業展開の中に組み入れてきた。仲間との対話や制作活動の様子から、相手の作品を褒める言葉や相手の作品に驚く姿等、グループ全体があたたかい雰囲気の中で創造活動をしている。

本単元は、特別支援学校学習指導要領高等部美術1段階の「B鑑賞」(ア)「美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる」を主に扱う。学校生活を共にしている仲間が表現した作品を観て“他者が見ている自分”と“自分が見ている自分”との共通点や相違点を知ること、数カ月、数年後、社会に出る生徒たちが自分自身の見方を広げる機会になると考えた。本時では「他者を色や形でイメージすること」をテーマに設定した。あえて「テーマ」を設定した理由は、今まで学習してきたことが活用できること、作者が説明しやすいこと、そして鑑賞者が比較しやすいことが挙げられる。「他者のことを考えて材料を選ぶ」「他者に伝わりやすい表現」「他者が表現したもののよさや美しさを見つける」ことで、日常生活においても他者を意識し思いやることや他者に自分の気持ちを伝える力、他者の気持ちを感じ取る力を育てることができる。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(高等部)より、美術科の造形的な見方・考え方は「表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての価値や意味をつくりだすこと」である。また、美術科の内容である「B鑑賞」は、「生徒が自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や美術作品などを見たり、自分の見方や感じ方を深めたりする活動を通して、「思考力、判断力、表現力」の育成を目指すものである。」と示されている。しかし、これまでの授業実践等を通し、知的障害特別支援学校の美術科においては表現の指導が中心であり、「見方や感じ方」を生かし深めるような鑑賞の指導については課題があると感じていた。そこで、知的障害特別支援学校高等部の生徒が、自己と他者の「造形的な見方・感じ方」を比較し、自分自身の見方や感じ方を広げ深めるために、鑑賞の活動を充実させた上で、表現と鑑賞を関連付けた授業構成の工夫を研究していきたい。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料の働きやコラーージュの技法を理解している ・材料の特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ（他者を表現する）や材料（新聞紙、雑誌、チラシ等）から感じたことや考えたことを基に主題を生み出し、表現方法を考えて構想を練っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤しながら作品に取り組むとともに、作品の良さ美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫を考えている

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：・材料の特徴やその良さ、面白さに気づき、それらを活かして制作している</p> <p>B：・表したいものに合った材料を見つけて切り抜き、形や色彩を意識して制作している</p> <p>C：・ハサミを使って画用紙や雑誌、写真などの使いたい素材を切り抜くことができる</p>	<p>作品</p> <p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>つぶやき</p>
思考・判断・表現	<p>A：・他者について考える活動から自分自身への理解を深め、表したいことを具体化して表現している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の切り抜き方や組み合わせ方を工夫し、立体感や動きを意識して表現している ・友達作品や活動の様子を見て、よいアイデアを自分の作品に取り入れようとしている <p>B：・ワークシートを活用しながら、材料の手がかりを見つけようとしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の切り抜き方や組み合わせ方を工夫し、テーマを表現する方法を考えている <p>C：・テーマに沿って素材や材料を集めながら作品に取り入れようとしている</p>	<p>作品</p> <p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>つぶやき</p> <p>ワークシート</p> <p>発表</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の組み合わせを試行錯誤し、表現したいものに近づけようとしている ・友達に対して好意的な印象を言葉にして伝えている、受け止めている ・作品の完成を目指して活動に取り組んでいる 	<p>発言</p> <p>作品</p> <p>行動観察</p> <p>発表</p>

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○			
		知	技	思	主
		知識	技能		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ コラージュについて知る ・ 友達のことを知る ・ 作品にする友だちを決める 	○			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ コラージュを経験する ・ 友達を表す色や形を考える ・ 新聞紙や雑誌、チラシ等から材料を選ぶ 			○	
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作する 材料を選ぶ 材料を切り抜く ・ 鑑賞する 		○		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作する 材料を選ぶ 材料を切り抜く 材料を組み合わせる 貼り付ける ・ ふりかえる 	○			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作する 材料を切り抜く 材料を組み合わせる 貼り付ける ・ 鑑賞 ・ 発表 			○	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表 友達から自分がどのように思われているか知る ・ 鑑賞 ・ ふりかえり わたしの知らない自分を見つける 			○	

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(主) …「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしたものを描いたり、色をつけたりすることができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・友達の作品のよさを言葉にして伝えることができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴やその良さ、面白さに気づき、それらを活かし作成している（知） ・他者の作品から自分自身の理解を深め、具体的に表現している（思） ・材料の組み合わせを試行錯誤し、表現したいものに近づけるようにしている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する ・自分と他者との表現の違いに気づけるような言葉かけをする
B	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや画像を切ることができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・教員の言葉を手がかりに制作活動に取り組むことができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいもの合った材料を見つけて切り抜いている（知） ・ワークシートを活用しながら、材料の手がかりを見つけようとしている（思） ・友達に対して好意的な印象を言葉にして伝えている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する ・本人のつぶやきを取り上げ、肯定し自信につながるようにする
C	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしたものを描いたり、色をつけたりすることができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・友達の作品のよさを言葉にして伝えることができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴やその良さ、面白さに気づき、それらを活かし作成している（知） ・友達の作品や活動の様子を見て、よいアイデアを自分の作品に取り入れようとしている（思） ・材料の組み合わせを試行錯誤し、表現したいものに近づけるようにしている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する
D	<ul style="list-style-type: none"> ・表現したいものの配色を考え、工夫して描くことができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・集中して制作活動に取り組むことができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいもの合った材料を見つけて切り抜いている（知） ・材料の切り抜き方や組み合わせ方を工夫し、テーマを表現する方法を考えている（思） ・友達に対して好意的な印象を言葉にして伝えている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する ・本人のつぶやきを取り上げ、肯定し自信につながるようにする
E	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしたものを描いたり、色をつけたりすることができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・友達の作品のよさを言葉にして伝えることができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴やその良さ、面白さに気づき、それらを活かし作成している（知） ・材料の切り抜き方や組み合わせ方を工夫し、立体感や動きを意識して表現している（思） ・材料の組み合わせを試行錯誤し、表現したいものに近づけるようにしている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する ・本人のつぶやきを取り上げ、肯定し自信につながるようにする
F	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや画像を切ることができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・教員の言葉を手がかりに制作活動に取り組むことができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいもの合った材料を見つけて切り抜いている（知） ・ワークシートを活用しながら、材料の手がかりを見つけようとしている（思） ・友達に対して好意的な印象を言葉にして伝えている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する ・本人のつぶやきを取り上げ、肯定し自信につながるようにする
G	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや画像を切ることができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・集中して制作活動に取り組むことができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいもの合った材料を見つけて切り抜いている（知） ・他者の作品から自分自身の理解を深め、具体的に表現している（思） ・友達に対して好意的な印象を言葉にして伝えている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する
H	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや画像を切り抜くことができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・作品作りに自信をもって取り組んでいる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいもの合った材料を見つけて切り抜き、形や色彩を意識して制作している（知） ・材料の切り抜き方や組み合わせ方を工夫し、テーマを表現する方法を考えている（思） ・材料の組み合わせを試行錯誤し、表現したいものに近づけるようにしている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する
I	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしたものを描いたり、色をつけたりすることができる（知） ・自分のイメージカラーや形を表現することができる（思） ・集中して制作活動に取り組むことができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴やその良さ、面白さに気づき、それらを活かし作成している（知） ・友達の作品や活動の様子を見て、よいアイデアを自分の作品に取り入れようとしている（思） ・友達に対して好意的な印象を言葉にして伝えている（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを確認できるワークシートを用意する ・自分と他者との表現の違いに気づけるような言葉かけをする

注：（知）…「知識・技能」，（思）…「思考・判断・表現」，（学）…「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・表したいものに合った材料を見つけて切り抜くことができる（知）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
9:45	○挨拶 ○出席の確認をする ○本時の説明を聞く ・本時の内容を知る ・目標の確認をする	・健康観察 ・TVに注目するよう言葉かけする ・適宜水分補給するよう言葉かけする
9:55	○材料を集めよう知 ・材料、用具を知る ・制作活動をする① （鑑賞、友だちとの会話可） ・制作活動をする② （鑑賞、友だちとの会話不可）	・ワークシートを準備するよう言葉かけする ・材料や用具を用意しておく ・ベルを2回鳴らし活動の合図を出す ・ベルを1回鳴らし活動の合図を出す
10:25	○片付けをする ・使用した材料や用具を適切に片付ける ○ふりかえり ・気づいたこと、わかったことを発表する	・材料や用具は整理整頓するよう言葉かけする ・身の回りの整理整頓を言葉かけする
10:35	○挨拶	

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G	H	I	
評価					
備考					

単元名「動くコラージュ～動画制作スタジオへようこそ～」

授業者 宮田 佳奈、加賀谷 聖

1. 対象

高等部生徒8名（1年3名、2年3名、3年2名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 2校時（9時45分～10時35分）、高等部B組教室

3. 単元設定の理由

本グループは、1年生3名、2年生3名、3年生2名の計8名の生徒で構成されており、特別支援学校学習指導要領高等部美術科2段階の学習に取り組んでいる。テーマや材料から想像力を膨らませることができる生徒が多く、平面、立体ともに意欲的に表現している。鑑賞では、友だちの作品のよさや面白さに気づいて言葉で伝えることのできる生徒が多い。今年度は、切り絵やステンドグラス、紙粘土を使用したクレイアニメーション、創作漢字のレタリング、自分を表現するコラージュ等の制作に取り組んできた。クレイアニメーションでは、4人一組の2グループに分かれて制作した。どちらのグループも紙粘土の特徴を生かし、表情や動き等を工夫したストーリー展開を考え、テーマを表現することができた。しかし、教員の援助を受けながら話し合いを進めたり、一部の生徒が出した意見をそのまま採用したりと、グループ内での意見交換があまりなされないまま終了した印象がある。コラージュでは、材料の組み合わせ方を工夫したり、文字を効果的に用いたりして、オリジナリティあふれる作品となった。コラージュは元々ある材料を合わせていくため、描くことに苦手意識がある生徒も「楽しい」とつぶやいて取り組む姿が見られた。

本単元では、コラージュで動画を制作する。クレイアニメーションとコラージュで得た知識・技能、工夫点や反省点を生かしながら、発想する力や構想を練る力を育てたい。また、グループでの学び合いを深め、友だちと一緒に作品づくりを通して喜びや楽しさを味わってほしいと考え、本単元を設定した。自分たちで考えたストーリーをグループで分割して担当し、最後に全てをつなげて全員で一つの動画を作っていく。美術は、学び合いを取り入れやすい教科であると考え。今回は、2人一組のグループを編成し、より活発なやりとりが生まれるようにする。一度経験した学習を取り入れることで、自分の意見に自信を持って伝え、意見交換がしやすくなるのではないかと考える。また、全グループで中間鑑賞会を設け、それぞれの作品にアドバイスし合う場を設定することで、学び合いを深めたい。動画制作スタジオの仲間として、意見を出し合ったり、修正点を見出したりしながら、より良い作品になるよう協力して進めていくことを目指したい。そして、自分たちを主人公としたストーリーを展開することで、楽しみながら表現方法の構想を練ることができるのではないかと考える。最後は上映会を企画し、動画制作スタジオとして全校に発表する機会を設ける予定である。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光の特性を理解できる ・材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、表したいことに応じて表現方法を工夫することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマや材料から感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、表現方法を考えて構想を練ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく態度を養い、豊かな情操を培う

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：・形や色彩、材料の働きに加え、光の効果にも気づき、制作している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴やその良さや面白さに気づき、それらを生かして制作している ・材料の位置や形を細かく変化させ、連続したコマの動きが滑らかになるように、表現を追求している <p>B：・表したいストーリーに合った材料を見つけて切り抜き、色や形を意識して制作している</p> <p>C：・材料を切り抜いて、動かしている</p>	<p>作品 行動観察 発言 つぶやき</p>
思考・判断・表現	<p>A：・自分の感じたことや考えたこと、友だちの感じたことや考えたことを組み合わせて、ストーリーや構成を考えて表現している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の切り抜き方や組み合わせ方、動かし方を工夫し、遠近や立体感、躍動感を意識して表現している <p>B：・テーマや材料から表したいことを思いつき、ワークシートにメモや絵で記入したり、話し合いの中で言葉にして伝えたりしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の切り抜き方や組み合わせ方、動かし方を工夫し、主題を表現する方法を考えている <p>例) 切り抜き方…1まとまりの素材を部分的に活用する等 組み合わせ方…色合い、数、大きさ、重ね方等 動かし方…角度、向き、回数等</p> <p>C：・テーマや材料から表したいことが思いつかない</p>	<p>作品 行動観察 発言 つぶやき ワークシート 発表</p>

主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の組み合わせや動きを試行錯誤し、表現したいものに近づけようとしている ・友だちとコミュニケーションをとり、協力しながら活動に取り組んでいる ・他グループの動画を見てアドバイスし、全員でより良い作品にしようとする 	作品 行動観察 発言 発表
---------------	--	------------------------

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○			
		知	技	思	主
		知識	技能		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・コラージュ動画について知る ・クレイアニメーションとコラージュ制作で学んだことや反省点、コラージュ動画制作に生かしたいこと等を話し合う ・ストーリーを考える 	○	○		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーを考える ・ストーリーの分担をする ・絵コンテを描く 			○	
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・制作① 新聞紙や雑誌等を切り抜き、材料を集める パーツを組み合わせる 		○	○	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・制作② 材料を組み合わせる 撮影する 		○	○	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・制作③ 撮影する 			○	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・中間鑑賞会 グループごとに途中までの作品を鑑賞し、全員でアイデアを出し合う 	○		○	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・修正、制作 中間鑑賞会で出た意見を元に、作品を修正する 			○	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・編集 ・鑑賞 		○	○	

注：(知) … 「知識・技能」， (思) … 「思考・判断・表現」， (主) … 「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを色や形で表現することができる(知) 表したいものに合わせて材料や用具を選び、適切に扱うことができる(技) テーマや材料から表したいものを生み出し、それに合った材料を選択して表現を工夫することができる(思) 友だちの作品の良さを見つけ、伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 表したいものに合った材料を見つけ、色や形を意識して制作する(知) 材料の特性を生かして切り抜き、表現を工夫する(技) ストーリーや材料を基に、表したいことの表現方法を発想する(思) 自分のイメージを友だちに伝えたり、友だちの意見を受け入れたりしながら活動に取り組む(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 用具の扱い方を分かりやすく示す 発想、構想したことを言語化して友だちに伝えられるように、付箋やワークシートを用いて考えをまとめられるようにする
B	<ul style="list-style-type: none"> 色や形、材料の特徴を捉え、表現することができる(知) 表したいものに合わせて材料や用具を選び、適切に扱うことができる(技) テーマや材料から表したいものを生み出し、それに合った材料を選択して表現を追求することができる(思) 制作過程で、自分の意見を周りに伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の良さや面白さに気づき、それらを生かして制作する(知) 材料の特性を生かして切り抜き、表現を工夫する(技) ストーリーや材料を基に、表したいことの表現方法を考え、構想を練る(思) 自分のイメージを友だちに伝えたり、友だちの意見を受け入れたりしながら活動に取り組む(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を伝えるだけでなく、友だちの意見も受け止めて、取り入れるかどうか検討しながら制作が進められるように言葉かけをする
C	<ul style="list-style-type: none"> 色や形、材料の特徴を捉え、表現することができる(知) 表したいものに合わせて材料や用具を選び、適切に扱うことができる(技) テーマや材料から表したいものを生み出し、それに合った材料を選択して表現を追求することができる(思) 友だちの作品の良さを見つけ、伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の良さや面白さに気づき、それらを生かして制作する(知) 材料の特性を生かして切り抜き、表現を工夫する(技) ストーリーや材料を基に、表したいことの表現方法を考え、構想を練る(思) 自分のイメージを友だちに伝えたり、友だちの意見を受け入れたりしながら活動に取り組む(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージと友だちのイメージを組み合わせるなどの方法があることを伝え、様々な表現方法に気づけるようにする
D	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを色や形で表現することができる(知) 表したいものに合わせて材料や用具を選び、適切に扱うことができる(技) テーマや材料から表したいものを生み出し、それに合った材料を選択して表現を工夫することができる(思) 制作過程で、自分の意見を周りに伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 表したいものに合った材料を見つけ、色や形を意識して制作する(知) 材料の特性を生かして切り抜き、表現を工夫する(技) ストーリーや材料を基に、表したいことの表現方法を考え、構想を練る(思) 自分のイメージを友だちに伝えたり、友だちの意見を受け入れたりしながら活動に取り組む(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を伝えるだけでなく、友だちの意見も受け止めて、取り入れるかどうか検討しながら制作が進められるように言葉かけをする
E	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを色や形で表現することができる(知) 表したいものに合わせて材料や用具を選び、適切に扱うことができる(技) テーマや材料から表したいものを生み出し、それに合った材料を選択して表現を工夫することができる(思) 制作過程で、自分の意見を周りに伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 表したいものに合った材料を見つけ、色や形を意識して制作する(知) 材料の特性を生かして切り抜き、表現を工夫する(技) ストーリーや材料を基に、表したいことの表現方法を考え、構想を練る(思) 自分のイメージを友だちに伝えたり、友だちの意見を受け入れたりしながら活動に取り組む(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 用具の扱い方を分かりやすく伝える 計画的に制作が進められるように、時間や期限を確認する
F	<ul style="list-style-type: none"> 色や形、材料の特徴を捉え、表現することができる(知) 表したいものに合わせて材料や用具を選び、適切に扱うことができる(技) テーマや材料から表したいものを生み出し、それに合った材料を選択して表現を追求することができる(思) 友だちの作品の良さを見つけ、伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の良さや面白さに気づき、それらを生かして制作する(知) 材料の特性を生かして切り抜き、表現を工夫する(技) ストーリーや材料を基に、表したいことの表現方法を考え、構想を練る(思) 自分のイメージを友だちに伝えたり、友だちの意見を受け入れたりしながら活動に取り組む(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 発想、構想したことを、自信をもって友だちに伝えられるように言葉かけをする
G	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを色や形で表現することができる(知) 表したいものに合わせて材料や用具を選び、適切に扱うことができる(技) テーマや材料から興味のあるものを中心に表したいものを生み出し表現する傾向にある(思) 友だちの作品の良さを見つけ、伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 表したいものに合った材料を見つけ、色や形を意識して制作する(知) 材料の特性を生かして切り抜き、表現を工夫する(技) ストーリーや材料を基に、表したいことの表現方法を発想する(思) 自分のイメージを友だちに伝えたり、友だちの意見を受け入れたりしながら活動に取り組む(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 用具の扱い方を分かりやすく示す イメージが膨らむように、テーマから連想できるものを教員と一緒に考える

令和5年度 公開研究協議会
芸術チームの実践

H	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを色や形で表現することができる（知） ・表したいものに合わせて材料や用具を選び、適切に扱うことができる（技） ・テーマや材料から興味のあるものを中心に表したいものを生み出し表現する傾向にある（思） ・友だちの作品の良さを見つけ、伝えることができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいものに合った材料を見つけ、色や形を意識して制作する（知） ・材料の特性を生かして切り抜き、表現を工夫する（技） ・ストーリーや材料を基に、表したいことの表現方法を発想する（思） ・自分のイメージを友だちに伝えたり、友だちの意見を受け入れたりしながら活動に取り組む（学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の扱い方を分かりやすく示す ・イメージが膨らむように、テーマから連想できるものを教員と一緒に考える
---	---	--	---

注：（知）…「知識・技能」，（思）…「思考・判断・表現」，（学）…「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・材料の切り抜き方や組み合わせ方、動かし方を工夫し、主題を表現する方法を考えることができる
(思考力・判断力・表現力)
- ・友だちと協力し、意見を出し合いながらより良い作品にしようとする事ができる
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
9:45	○はじまりのあいさつ 本時の学習内容を知る	・パワーポイントを用いて説明し、見通しがもてるようにする
9:46	○前時の振り返り ・ストーリーや分担を確認する ・絵コンテを確認する	・全員で協力して、1つの物語、動画を制作することを再確認する ・制作する上で、一人ひとりが意見を出し合い、お互いの意見をしっかりと聞いて進めていくことが大切だと伝える
9:55	○制作① 愚 ・ストーリーに必要な材料を考える ・ワークシートに書き出す ○制作② 愚 ・新聞紙や雑誌、チラシ等から材料を切り抜く ・組み合わせてみる ・動かして試してみる	・全体の繋がりを意識して材料を考えるように伝える ・本単元の第1時で話し合った反省点や工夫点を生かして制作できるように言葉かけをする ・実際にコマ撮りで動画を撮影しながら、材料を集めてもよいことを伝える ・デザインカッターの使用場面では、安全面に留意する ・話し合いが上手くいっていないグループには、教員がサポートとして入る
10:30	○進捗状況の確認、まとめ ・できているところまでグループ内で確認する ・上手くいった点や工夫点、改善点を共有する ・次回はどこから始めるか確認する	・次回はどこから活動するか、次回に向けて工夫すると良い点等は何か気づけるようにする
10:35	○おわりのあいさつ・片付け	・協力して片付けるよう伝える

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G	H
評価			
備考			

単元名「まえとうしろにチャレンジ！」

授業者 樋口裕也

1. 対象

小学部3年1名

2. 日時・場所

令和6年1月27日 2校時（9時50分～10時35分）、小学部B組教室

3. 単元設定の理由

実態と目標の異なる児童3名に対して、教員1名が同時刻に個別指導をする授業形態をとっている。本校では日課表上「国算」としており、国語と算数、自立活動を合わせた指導として位置付けている。本指導案は其中でも対象児童を1名に絞った内容の学習指導案としている。

対象児童は友だちや教員、身近な出来事に強い興味を示すことが多く、特に野球に対して強く興味を抱いている。最近では大谷翔平から送られてきたグローブを毎日大切に使って休み時間を過ごしている。日常生活の会話において、周りの雰囲気や知っている言葉の中で会話を成立させていることが多い。グローブの貸し借りのやり取りにおいても対象児童は「まだ使いたい」という気持ちがありながら「貸して！」と言われると二つ返事で「いいよ」と友だちにグローブを貸してしまい「本当は使いたい」という気持ちをうまく友だちに伝えることが難しく、その感情をうまくコントロールできないことがある。そのような際にモヤモヤとした気持ちを発散させるかのように、他人を不快にさせてしまう発言が増えてしまう。難しい表現や言い回し、わからない言葉がある際には前後の言葉との関係性や会話の内容から何となく会話を成立させたり、返答をせずに会話を終わらせたり、適切ではない言葉を使った返答になり友だちとトラブルに発展することもある。トラブルになってしまった後、教員と二人きりで個室や落ち着いた環境でその時の気持ちを「心配だったの?」「不安だったの?」「疲れていたの?」等クローズクエスチョンで問うと「うん」「ううん」と首を振って答えることができる。

また太田のステージ評価では stageⅢ-1 であり、基本的な比較の概念形成をしたり、思考の柔軟性を養ったり、単語や表現の語彙を増やしたりする段階である。

本単元は特別支援学校小学部学習指導要領国語の目標である「日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする」より設定している。小学部2段階内容の〔知識及び技能〕より、ア（ウ）「身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。」を学習内容と設定した。

対象児童は清音の平仮名をすべて読むことができ、清音の片仮名も42/50文字（シとツ、ワとク、ソとン、コとユが読めない時がある）は確実に読めるようになってきた。文字のまとまりで「ずこう」と読むことができるが「ず」だけでは、読む際に「す」と読むことがある。他の平仮名の濁音も、文字を読んだり書いたりする際の文字の音のイメージはまだ曖昧である。

対象児童が今後の生活で友だちとの会話を楽しんだり、様々な人と適切なコミュニケーションを取ったりできるようにしてほしい。対象児童は聴覚情報を優先的に採用して行動をすることが多いが、対象児童の語彙力

では処理しきれない言葉もまだ多く、太田のステージ評価でもわかるように自分の体の近くにある感覚や自分の感情の語彙力を増やすことが大切だと考えている。また、本人の体調や周囲の環境等によっては、視覚情報や身体への感覚入力(前庭覚、固有覚)が入り乱れてしまい、正確に聴覚情報を処理しきれないことがある。現段階では聴覚情報を優位に使っているが、本人の体調や周囲の環境が整っている場合には視覚的な情報の方が物事をより深く理解できて、スムーズな活動や応答、発言ができています。本単元では、『対象児童が日常生活の中で味わう『さまざまな事物・経験・思いをどのように言葉で理解できるようになること』を、野球等の本人の興味が高い題材を用いて学習する。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	前後左右の言葉を聞いて、具体物を指示された位置に置くことができる <知技2段階ア(ウ)>	前後左右の言葉を理解して、具体物の位置を教員に伝えることができる <思判表2段階Aイ>	言葉がもつよさを感じるとともに言葉で伝えようとすることができる

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	A: 前後左右の言葉を聞いて、1人で自信を持って、具体物を指示された位置に置くことができる(100%できた) B: 前後左右の言葉を聞いて、教員に確認をしてから、具体物を指示された位置に置くことができる(60%できた) C: 具体物を誤った場所に置く。具体物の操作に取り組めない	具体物の操作 発言
思考・判断・表現	A: Bに加えて、前後左右の具体物の名称などを詳細に教員に伝えることができる(100%できた) B: 具体物の位置を正確に教員に伝えることができる(60%できた) C: 具体物の位置を教員に伝えられない	発言 指差し
主体的に学習に取り組む態度	・教員の手本をよくみて自分も取り組もうとしている ・わからない時に教員に質問をしている	

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	体を前後に動かそう	<input type="checkbox"/>		↓
2	体を左右に動かそう	<input type="checkbox"/>		
3 (本時)	プロ野球選手の前後左右はどれ？	<input type="checkbox"/>		
4	あなたの前後左右には何がある？（確認テスト）		<input type="checkbox"/>	

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(主) …「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
児童	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度前後左右を教員と確認すると具体物を前後左右に動かすことができる(知) ・前後左右の位置関係が曖昧になり言葉で伝えられないことが多い(思) ・わからない時に「わからない」と言葉に出すことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後左右を聞いて具体物を指示された位置に置くことができる(知) ・前後左右の言葉を理解して、具体物の位置を教員に伝えることができる(思) ・わからない時に「わからない」と教員に伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後左右確認シート ・セリフカード ・伝えたい気持ちカード

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(学) …「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標 (評価の観点)

- ・前後左右の言葉を聞いて、具体物を指示された位置に置くことができる (知識・技能)

(2) 本時の展開:【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
9:50	1 はじめのあいさつ・学習内容の確認	・引き出しの中を一緒に見て、取り組み方を確認する ※1
9:51	2 前後左右の確認をしよう ・お箸を持つ手はどっち? ・グローブをはめる手はどっち? ・あなたの前にいる人は誰? ・あなたの後ろにいる人は誰? ・この数字の上には何というもじが書いてある? (9マス)	・これまで取り組んだ教材を用いて、左右と前後を確認する。つまずきが見られた場合は3回程度を上限に再度取り組む ・課題の中で左右を確認する際に「右側には緑のシールを貼るね」「みどりのみ、みぎのみだよ」と伝える
10:01	3 左右チャレンジ ^知 ・〇〇の右にある物はなに? ・〇〇の左にある物はなに? ・コレを〇〇の右において ・コレを〇〇の左において	※1 ・初めて取り組む課題の為前後左右確認シートの活用方法を確認する ・「わからない」の伝え方を確認する ・〇〇 (プロ野球選手のフィギュア) を動かさないルールを確認する ・あっている位置に具体物を置けた際には〇シールを貼る。誤った場所に具体物を置いた際にはやり直す箇所が分かりやすいように△のシールを貼る
10:11	4 前後チャレンジ ^知 ・〇〇の前にある物はなに? ・〇〇の後ろにある物はなに? ・コレを〇〇の前において ・コレを〇〇の後ろにおいて	※1
10:21	5 「平仮名と片仮名を合わせよう！」	※1 ・終わった際の教員への伝え方を口頭とメモで確認をする
10:31	6 「片仮名テスト」	・児童には「カタカナチャレンジ」だよと伝え、「終わったら先生が確認するので、とりあえず終わったよ BOXに入れてね」と伝える

10:35	7 ふりかえり・おわりのあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りプリントの記入をして、教員と確認する ・残りの時間と児童の様子を見て、50ピースのパズルに取り組むか、プリント課題に取り組むか、児童と相談して決める <p>※1 緊張している表情が見られたり、不安な表情が見られた場合には「気持ちカード」で今の気持ちを確認して、ヘルプの出し方を確認したり「いつでもスライム使っていいよ」と言葉がけをする。それでも落ち着かない様子があれば、少し体を動かす事を提案する。</p>
-------	------------------	---

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A
評価	
備考	

「名前当てクイズ、ことばであらわそう」「ききとってあつめよう」

授業者 古謝美沙紀

1. 対象

小学部5年 3名

2. 日時・場所

令和6年1月27日 2校時（9時50分～10時35分）、小学部C組教室

3. 単元設定の理由

実態と目標の異なる児童3名に対して、教員1名が同時刻に個別指導をする授業形態をとっている。本校では日課表上「国算」としており、国語と算数、自立活動を合わせた指導として位置付けている。本指導案では、児童Aと児童Cのペア学習、児童Bの個別学習という形での学習指導案としている。

（児童A）

児童Aは、教員を中心に会話を通して関わりをもつことが好きで、相手に積極的に話しかけたり、自身でイメージした世界観の中でやり取り遊びを楽しんだりする。興味関心と学習がとても強くつながっており、教材の提示方法一つで学習意欲が大きく変化する。興味関心のある好きなキャラクターや人物の決め台詞や、好きな歌の歌詞、ダンスを覚えて概ね模倣することができる一方で、苦手意識のある金銭学習への取組みや話の全体的な流れや登場人物の気持ちを台詞から推測することは難しい。

（児童B）

児童Bは、好きなものを題材にコマ漫画として絵などで表現すること、身近な相手にコマ漫画を効果音や登場人物、物の名前を伝えるという読み聞かせをすることが好きである。表現したい内容に偏りはあるが、伝えたい気持ちが強く、相手により伝わるように、絵以外にも漢字や数字を描く姿が見られるようになってきた。その一方で、机上学習に苦手意識があり、学習場面では、ひらがな・カタカナは一文字ずつ想起したり、50音表を見て確認したりしながら書いているが、コマ漫画に頻繁に使用する言葉は自力でスラスラと書いている。興味の幅は狭いものの、好きなことに対しての行動力や吸収力は非常に高いので、好きなものの名前などを題材に、文字の定着を図りながら、表現活動のバリエーションを増やしていきたい。

（児童C）

児童Cは、電車や食べ物への興味関心が高い。身近な路線の駅名や時刻ダイヤを把握しており、目的地に応じて利用する路線を考えるなど、複数の情報を合わせて考えている姿もみられる。書字では、小学3年生程度の学習に取り組んでおり、特にプリント学習では丁寧に文字を書こうと意識している。また、知っている言葉は漢字で書こうとする意欲がある。その一方で、周囲の様子で注意散漫になる面があり、聴覚で捉えたことをそのまま口に出して話しかけることが多い。一方通行の会話になることが多く、自分が話しかける一方で相手からの質問を理解していない様子が多くみられ、質問と応答のやり取りで会話が成立することは難しい実態がある。

本単元「名前当てクイズ ことばであらわそう」では、獲得している語彙を活用することに重点を置

いている。また、互いに興味のあるものをそれぞれのお題に設定することで、語彙を増やしたり、当てはめる言葉を相談し合ったりすることを想定している。言葉の関連性も合わせて学習できるように、ワークシートで気持ちの言葉（「うれしい」「おどろく」等）、感覚の言葉（「すっぱい」「やわらかい」等）と例示していろいろな言葉の種類を意識できるようにした。

単元「ききとって あつめよう」では、短い単語を聞くこと、同じ単語を見て探すことに重点を置いている。発音や聞き取りに課題があり、イメージした言葉と発音が一致しない傾向がある実態から、「発音」と「文字」に注目した課題を設定した。一音一字の特性がある日本語のひらがな、カタカナの学習で、聞き取った音を書いたり、探したりする活動を通して、どの状況でも「発音」と「文字」が一致していくことをねらっている。また、児童が発音する機会を設定して、自身の発音を振り返えることのできる課題も単元後半で取り入れていく。

4. 単元目標

1) 単元「名前当てクイズ ことばであらわそう」

観点		知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	児童A	・名前当てクイズを通して、お題の言葉を使わずに他の言葉で表現することができる／2段階・イ-(イ)	・イラスト等を見て、知っている言葉を書いて伝えることができる／2段階・Bア	・言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、名前当てクイズで知っている言葉を使うことができる／1段階・ウ
	児童C	・名前当てクイズを通して、名詞や形容する言葉を使ってお題を表現することができる／2段階・イ-(イ)	・イラスト等について、経験を踏まえながら、お題を表現するテーマに関連した単語を書くことができる／3段階・Bウ	・名称以外の言葉で表せることを感じるとともに、名前当てクイズを通して、言葉で相手に伝えようとするすることができる／2段階・ウ

2) 単元目標 単元「ききとって あつめよう」

観点		知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	児童B	・聞き取りゲームを通して、興味のある物事の部品や食材の名前を聞き取ることができる／2段階・ア-(ウ)	・聞き取った音や単語の文字を書くことができる／2段階・Bイ	・興味のあるものを言葉で表せることを感じるとともに、単語を聞き取る活動を通して言葉を使うことができる／1段階・ウ

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

1) 単元「名前当てクイズ ことばであらわそう」

観点	単元評価の具体的内容		評価方法
知識・技能	児童A	A：関連する言葉を複数、挙げて伝えている B：お題の名称を理解し、その言葉を使わずに表現している C：お題の言葉をそのまま使っている	発言 ワークシート
	児童C	A：関連する言葉を複数連想したり、経験や他児との相談の中から表現する言葉を考えたりして、発言したりや書いたりしている B：お題の事柄の名称を理解し、関連する言葉を連想したり、ワークシートを参考に、表現する言葉を考えたりして、書いたり発言したりしている C：お題の事柄の名称をそのまま使っている、テーマと関連性のない言葉を書き入れている	発言 取り組む様子 ワークシート
思考・判断・表現	児童A	A：お題を見て、テーマごとに様子や状態をイメージしながら、言葉を選んでいる B：お題を見て、連想される言葉を考えて会話を通して表現したり、書いたりしている C：書かない、発言しない	発言 会話 ワークシート
	児童C	A：経験を振り返ったり、他児へ質問をしたりして、テーマに入れる言葉を選別して、書いている B：お題から連想される言葉を経験や補助教材を用いて、考えて書いている C：書こうとしない、お題の言葉やテーマに沿わない言葉を書いている	発言 会話 ワークシート
主体的な学習に取り組む態度	児童A	・知っている言葉や補助教材の中から表現する言葉を探そうとしている ・相手に伝わるような声で問題を出している	発言 学習態度
	児童C	・形や様子を表す言葉を探そうとしている ・クイズ形式で、相手に伝わるような特徴の言葉を考えている	発言 学習態度

2) 単元「ききとって あつめよう」

観点	単元評価の具体的内容		評価方法
知識・技能	児童B	A：単語を聞き取り、補助手段を自分で選んで書き取っている B：教員の言葉を聞いて、5文字程度の単語を聞き取っている C：教員の言葉を聞こうとしない	発言 書き取りの様子 ワークシート
思考・判断・表現		A：聞き取った音に対応する単語を書いている B：思い出したり、補助教材を使ったりして、聞き取った音に	発言 書き取りの様子

	対応したひらがな、カタカナを書いている C:書こうとしない	ワークシート
主体的な学習 に取り組む 態度	・教員の声に耳を傾けて、一文字ずつ表記しようとしている ・書き取った文字と同じ文字を表から探し出そうとしている	書き取りの様子 聞き取りの様子

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

1) 単元「名前当てクイズ ことばであらわそう」児童A・児童C

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
				↓
1	「これはなんでしょう」 ①イラストを見て物の名前を考える ②物の名前と特長、様子を言葉にして伝える	○		
2 (本時)	「名前当てクイズ①」 ③イラストを見て物の名前を言わないで、特徴を挙げる ④物の名前を言わずに相手に伝わる言葉を複数考える	○	○	
3	「名前当てクイズ②」 ⑤お題の単語をヒントに使わずに、お題が伝わる言葉を考える ⑥お題が伝わるヒントを複数考える	○	○	

注:(知)…「知識・技能」,(思)…「思考・判断・表現」,(主)…「主体的に学習に取り組む態度」

2) 単元「ききとって あつめよう」児童B

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
				↓
1	「ことばをしろ」 ①言葉をつくろう ②言葉をかいてみよう	○		
2 (本時)	「ことばであそぼう」 ③言葉をさがそう ④言葉をきいてみよう ⑤言葉をきいてかいてみよう	○		
3	「ことばでつたえよう」 ⑥聞き取った言葉を集めてみよう ⑦集めた言葉をさがそう ⑧言葉で伝えてみよう		○	

注:(知)…「知識・技能」,(思)…「思考・判断・表現」,(主)…「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

1) 単元「名前当てクイズ ことばであらわそう」

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
児童 A	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある物の名前は概ね覚えているが、使ったことのない物の名前は分からないことが多い。また表現や説明に使える語彙数が少なく、説明できなかつたりあきらめたりすることが多い(知) 今までの経験から物の名前を思い出そうとしたり、相手に尋ねて答えを導き出そうとしたりすることができる(思) 課題に対して、興味の有無が意欲を大きく左右する。教員との会話を楽しみながら学習環境を整えると意欲的に学習に取り組む姿勢がみられる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 名前当てクイズを通して、お題の言葉を使わずに他の言葉で表現することができる(知) イラスト等を見て、知っている言葉を書いて伝えることができる(思) 言葉で表すことやそのよきを感じるとともに、名前当てクイズで知っている言葉を使うことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員や児童との会話を通して学習する場面を設定し、話を通して知識の共有をできるようにする 学習時間に余裕をもたせて、じっくりと課題に取り組めるように設定する 言葉が出てこないときは、他児と相談する、思い出す、ワークシートを見る等手立てを思い出せるように支援を行う
児童 C	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で目にする物の名前は分かるものが多い。聴覚優位で音の響きとして名前や言葉を覚えていても意味や該当する物を知らないことがある。名詞や動詞以外の語彙が少なく、感覚としてイメージすることが苦手である(知) 物の名前は知っていても、使い方や特徴は知らないことがある。その物を伝える方法は視覚情報が最優先され、イラストそのままの情報を表記することが多く、実体験からイメージすることに課題がある(思) クイズや遊びを楽しむことはできるが、勝ち負けのあるものは、その結果に意識が集中して他の事柄に意識が向けられないことが多く、相手の存在を忘れてしまう傾向が強い(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 名前当てクイズを通して、名詞や形容する言葉を使ってお題を表現することができる(知) イラスト等について、経験を踏まえながら、お題を表現する単語を書くことができる(思) 名称以外の言葉で表せることを感じるとともに、名前当てクイズを通して、言葉で相手に伝えようとする(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 「気持ちの言葉」「感覚の言葉」など言葉を分類したワークシートを補助教材として提示する 自分以外の考えに触れることができるように、他児との会話や考えた言葉を教える場面を設定する 形容する言葉が適切でない場合、より具体的に考えられるように言葉かけをしたり、ワークシートを提示したり、他児に質問するなど再度考える場を設ける

2) 単元「ききとって あつめよう」

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
児童 B	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活は今までの経験から指示のみで活動できることが多いが、表出できる物の名前は少なく、文字と発音が一致しない音がある(知) ひらがな、カタカナともに概ね書けるようになってきているが、使用頻度が低い「る」「ね」「く」などの文字は50音表で確認することがある(思) 知らない言葉や正しく言えない言葉に対して忌避感が強く、質問や繰り返して言う場面では、「わからない」と話題を終わらせてしまうことが多い。興味のある話題の場合は、伝わるまで言い続けたり、別の手段を考えたりする姿がみられる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りゲームを通して、興味のある物事の部品や食材の名前を聞き取ることができる(知) 聞き取った音や単語の文字を書くことができる(思) 興味のあるものを言葉で表せることを感じるとともに、単語を聞き取る活動を通して言葉を使うことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 文字が分からなくなった時、自分で調べたり、質問したりできるように、50音表や質問カード、聞き方表を学習中は常に見える場所に提示しておく 興味のある素材から取り入れ、徐々に日常生活で関わる事柄を取り扱っていく 単語を聞き取れないときは、一音ずつ区切って伝える

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(学) …「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

児童A

- ・知っている言葉を使って、お題を表現する言葉をテーマに応じて書くことができる（思判表）

児童B

- ・教員の声を聞いて、言葉を書き取ることができる（知技）

児童C

- ・経験を思い出したり、児童や教員と話したりして、お題を表現する言葉を書くことができる（思判表）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容			指導上の留意点及び配慮事項
	A	C	B	
9：50	○あいさつ ・個別学習用に机や椅子を移動し、学習教材を用意する ・準備ができたことを教員に報告する			・各自の学習机、椅子、課題の棚を指定された場所に用意する
9：55	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 名前あてクイズ ことばであらわそう </div> ④		※児童Bは自立課題	①本時のお題である物の名前、知っているか知らないかを確認する ①自分が知らないことは、質問したり、一緒に考えたりするよう伝える ①児童が困って助けを求めたり、お題から大幅に話題が逸れたりしない限り、活動を見守る
児A（思判表）知っている言葉を使って、お題を表現する言葉をテーマに応じて書く 児C（思判表）経験を思い出したり、児童や教員と話したりして、お題を表現する言葉を書く				
10：20	※児童Aは自立課題	※児童Cは自立課題	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> ことばであらわそう </div> ④ ①教員の言葉をワークシートに書き取る ②書き取った言葉を言葉リストから探す ③教員と答え合わせ	①単語を聞き取れないときは、一音ずつ区切って伝える。書き取るスピードに応じて調整する ②言葉リストから全て探せていない場合も、様子を見守り、答え合わせの際に補足する
児B（知技）教員の声を聞いて、言葉を書き取ることができる				

10:30	○個別課題 ・食べ物屋さん ・助詞の学習 (てにをは)	○個別課題 ・資料からの 読み取り	○個別課題 ・文字構成と単語 書き取り	・児童の学習状況に応じて、課題の内容 や量を調整する ・児童の興味関心のある教材を適宜取 り入れ、学習への意欲向上につなげ る
10:35	○あいさつ ・各自、課題終了後、教員に呼びかけて課題終了 の挨拶をする			

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	児童A	児童B	児童C
評価 (知技)			
評価 (思判表)			
備考			

単元名「聞いて、話して、もっと知って」

授業者 別府さやか、仙宅元記、田中裕子

1. 対象

中学部1～3年 6名（1年2名、2年2名、3年2名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 3校時（10時45分～11時35分）、 中学部B組教室

3. 単元設定の理由

本グループの生徒は、1年生2名、2年生2名、3年生2名の計6名で構成されている。生徒の読み書きの習熟度については、小学1～2年生程度である。話のやりとりについては、日常生活では、教員との一対一の会話を積極的に行う傾向にあるが、ほとんどの場面で会話の軸は教員側にある。生徒同士の会話になると、片方の生徒の一方通行になりがちで、生徒同士で話のやりとりを楽しむ様子はあまり見られない。生徒にとって、言葉が身近なものではあるものの、相手の話に興味をもって聞くことや話をつないでいくことに課題が見られる。

本単元では、特別支援学校学習指導要領中学部国語科第1段階「A 聞くこと・話すこと」を重点的に扱う。国語科の「聞くこと・話すこと」の領域は、3領域の中でも、音声言語によるコミュニケーションを扱っており、日常生活に直結している。生徒の実態から、日常生活のコミュニケーションの場面と学習場面を連動させていくことがより大切だと考えた。そこで本単元では、日常生活のコミュニケーションの場面を想定しながら、会話が続くことの楽しさやよさを実感できるように学習の場を設定していく。生徒同士の言葉を介しての関わり合いの中で、生徒の人との関わりを好むことや伝えたい意欲を生かしながら、相手に伝わる喜びや相手が自分のことを受け入れる喜びを味わうことができるようにしていきたい。

指導にあたっては、「話し合うこと」を指導の中心に置き、お互いの話をよく聞き合い、語り合う力を育成していく。そのために、相槌をうったり、相手が経験したことを知るための質問を繰り返したりすることを通して、言葉の働きを知ることや相手の話の内容や話し方に興味をもって聞き、話を聞く姿勢や質問の仕方などについて自分なりの考えをもつことをねらいとする。そこで本単元では、聞き手の“話を聞くときの態度”に注意を向ける場面や“質問内容を考える”場面を設定し、考えたことをもとにそれを繰り返し練習していく。その中で、聞き手・話し手となった自分の姿を客観的に捉えて振り返ることができるようにしていき、生徒のよかったところを価値づけることで本単元のねらいに定めた生徒の姿を実現していきたい。また、学習の進め方を毎回同じパターンで進めることにした。それにより、生徒一人ひとりが学習の見通しをもって取り組んだり、これまで積み重ねた学習の経験を想起しながら、主体的に言語活動に取り組んだりすることができると思った。同じパターンでの学習によって、生徒一人ひとりの目標の定着を図りながら、主体的に学ぶ姿勢を大事にしていきたい。本単元の活動では、次の3つを学習の柱とし、各学習内容の関連性を大事にしながら、生徒が達成感を味わうことができるようにしていきたい。

①スモールトーク『よ〜く聞いて、話して』

学習の導入となる活動である。2人1組となり、日常生活のコミュニケーションの場面を想定しながら、身近によくあるテーマで質問や応答、相槌を繰り返し、相手とコミュニケーションをとる。

指導にあたっては、生徒が楽しみながらコミュニケーションをとっていくことができるよう、「相槌スタンプカード」を交換する活動を取り入れる。これにより、聞き手側が相槌をうつことによって、会話がつながることや話し手がかつと会話を続けたいことなどを実感させ、会話の姿勢や態度を後半の言語活動につなげていきたいと考えた。

②言語活動1『質問タイム』

本単元の主たる活動であり、教員が指定したテーマでお互いの経験を5W1Hの内容を軸に、より詳しく聞き合う。相手の話に興味や関心をもって聞くことや相手が経験したことを知るための質問の仕方を考える。また、友だちとの聞き合いを通して、自分や相手の聞く態度や質問の仕方について考えることをねらいとする。

複数人での聞き合いの中で、相槌や質問を繰り返すことで、相手との話が続くことや相手のことをよりよく知ることができることを実感させながら、言葉の働きについての気づきを促していきたいと考えた。また、活動の後半には、自分や相手の話を聞く態度や質問の仕方についての振り返りの時間を設定し、相手のよかったことへの気づきも促していく。生徒のがんばりを価値づけ、次時の学習や日常生活へつながるようにしていきたい。

本活動では、グループの人数を段階的に増やしていき、日常生活での少人数や集団での話し合いの場面につなげていきたい。

③言語活動2『ほめほめじゃんけん』

言語活動1では、お互いの経験について聞き合い、自分や相手の話を聞く態度や質問の仕方を振り返り、振り返りシートに記入した。それをもとに、言語活動の中で感じた自分の考えを伝え合う。他者に自分のがんばりを認められる経験は、褒められたい意欲や伝えたい意欲を倍増させる。また、相手の話の内容に関心をもって聞くことができ、日常生活での友だちとの一対一の会話の成立につながると考えた。じゃんけんにも勝った方から相手の聞く態度や質問の仕方のよかったところを伝える活動で、生徒が楽しみながらお互いのがんばりを認めることができるようにしていきたいと考えた。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 身近な大人や友だちとのやりとりを通して、言葉には経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる <p style="text-align: right;">中1ア(ア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと・話すこと」において、相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつことができる <p style="text-align: right;">中1Aオ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて積極的に人と関わったり、相手に伝わるように話す事柄を考えたりしながら教員や友だちと対話することができる

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：言葉には自分や相手の経験を伝えたり、経験をお互いに聞き出したりする働きがあることに気づいている</p> <p>B：質問や相槌を繰り返すことよきに気づいている</p> <p>C：経験の伝え合いにおける質問や相槌のよきに気づけず、自分と相手の経験を伝え合いにおいてこれらを使うことができない</p>	<p>発言 発表 会話 ワークシート</p>
思考・判断・表現	<p>A：・聞き手として、話し手と視線を合わせたり、頷いたりするなどして関心をもって話を聞き、自分の感じたことを伝えている ・話し手として、聞き手の聞く態度や質問の仕方について考えをもち、表現している</p> <p>B：・聞き手として、話し手と視線を合わせたり、頷いたりするなどして関心をもって話を聞いている ・話し手として、自分の話し方に考えをもち、表現している</p> <p>C：・教員の言葉かけなどの支援を拒み、話し手の話を聞こうとしない ・聞く態度や質問の仕方について、振り返ろうとしない</p>	<p>発言 発表 会話 ワークシート</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を使って、自分が経験したことや考えたことなどを伝えようとしている 会話のテーマをもとに、教員や友だちに質問をしている 教員や友だちとの会話の場面で周りの人と関わったり、発表の場面で自分の考えや思いを伝えようしたりしている 	<p>発言 発表 会話 ワークシート</p>

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
1	・会話をする時の聞く態度の良い例と悪い例から、どちらがもっと話をしたくなるか考える	○		↓
2	・相槌をうつ時に使う言葉を知る ・教員との会話を通して、質問や相槌を返すことのよさやまねしたい聞き方について考える	○		
3	・質問する時に使うとよい言葉を知る ・教員との会話を通して、自分なりに考えたことを伝え合う	○		
4	・教員と2人1組で相槌や質問を返ししながら、お互いに経験したことを聞き合う ・教員との会話を通して、自分なりに考えたことを伝え合う	○		
5 (本時)	・友だちと2人1組で相槌や質問を返ししながら、お互いに経験したことを聞き合う ・友だちとの会話を通して、自分なりに考えたことを伝え合う		○	
6	・友だちと2人1組で相槌や質問を繰り返しながら、お互いに経験したことを聞き合う ・友だちとの会話を通して、自分なりに考えたことを伝え合う		○	
7	・教員を含む3人1組で相槌や質問を繰り返しながら、お互いに経験したことを聞き合う ・教員や友だちとの会話を通して、自分なりに考えたことを伝え合う	○		
8	・友だちと3人1組で相槌や質問を繰り返しながら、お互いに経験したことを聞き合う ・友だちとの会話を通して、自分なりに考えたことを伝え合う		○	
9	・友だちと3人1組で相槌や質問を繰り返しながら、お互いに経験したことを聞き合う ・友だちとの会話を通して、自分なりに考えたことを伝え合う		○	

注：(知) … 「知識・技能」，(思) 「思考・判断・表現」，(主) … 「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなことであれば、2～3語で伝えることができる(知) 人の話を聞く際、注意が逸れたり、話題に関係ない話をし始めたりすることがある(思) 発表などの場面で言葉を使って、自分の考えを伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相槌や質問を繰り返すことにより、相手との会話が続くことに気づくことができる(知) 聞き手として、話し手と視線を合わせたり、頷いたりしながら話し手の話を聞くことができる(思) 話し手として、自分の話し方を振り返ったり、相手のよいところに気づいたりすることができる(思) 質問内容を明確にして、教員や友だちと対話することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 質問内容を提示し、繰り返し練習できる場を設定する 話を聞く態度のポイントを提示する 自分と相手が会話をしている動画をもとに振り返ることができるようにする 楽しく言語活動ができる場面を設定する
B	<ul style="list-style-type: none"> 指定された質問などは伝えることができるが、自ら言葉を使って伝えようとすることは少ない(知) 人の話を聞く際、話の内容の大体を捉えることができるが、話し手と関係のないところを眺めるなど話を聞く態度に課題がある(思) 発表などの場面で言葉を使って、自分の考えを伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相槌や質問を繰り返すことにより、相手との会話が続くことに気づくことができる(知) 聞き手として、話し手と視線を合わせたり、頷いたりしながら話し手の話を聞くことができる(思) 話し手として、自分の話し方を振り返ったり、相手のよいところに気づいたりすることができる(思) 質問内容を明確にして、教員や友だちと対話することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 質問内容を提示し、繰り返し練習できる場を設定する 話を聞く態度のポイントを提示する 自分と相手が会話をしている動画をもとに振り返ることができるようにする 楽しく言語活動ができる場面を設定する
C	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に他者と関わろうとするが、言葉よりもスキンシップでの関わりが多い。経験したことを文章で伝えようとするが、言葉が不明瞭で伝わりにくい。相手の話と共に感ずる言葉表現することが時々ある(知) 教員と一対一で会話をしている際、注意が逸れたり、話題に関係ない話をし始めたりすることがある(思) 言葉を使いながら、積極的に人と関わったり、自分の考えを伝えたりすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相槌や質問を繰り返すことにより、会話が弾み、会話が楽しくなることに気づくことができる(知) 聞き手として、話し手と視線を合わせたり、頷いたりしながら話し手の話を聞くことができる(思) 話し手として、自分の話し方を振り返ったり、相手のよいところに気づいたりすることができる(思) 質問内容や聞き取りたい内容を明確にして、教員や友だちと対話することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 対話の仕方の見本を提示し、模倣できる場面を設定する 話を聞く態度のポイントを提示する 自分と相手が会話をしている動画をもとに振り返ることができるようにする 楽しく言語活動ができる場面を設定する
D	<ul style="list-style-type: none"> 同じ言葉を繰り返すことにより人と関わろうとする。教員の簡単な質問には、答えることができるが、単語での返答になりがちであり、相手の話を聞いて、相槌をうったり、質問したりして、話をつなぐことは難しい(知) 教員と一対一で会話をしている際、関心をもって聞いている様子は見られないことが多い(思) 言葉を使いながら、積極的に人と関わったり、自分の考えを伝えたりすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相槌や質問を繰り返すことにより、会話が弾み、会話が楽しくなることに気づくことができる(知) 聞き手として、話し手と視線を合わせたり、頷いたりしながら話し手の話を聞くことができる(思) 話し手として、自分の話し方について振り返ったり、友だちの話を聞く態度や質問の仕方のよさに気づいたりすることができる(思) 質問内容や聞き取りたい内容を明確にして、教員や友だちと対話することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 対話の仕方の見本を提示し、模倣できる場面を設定する 話を聞く態度のポイントを提示する 自分と相手が会話をしている動画をもとに振り返ることができるようにする 楽しく言語活動ができる場面を設定する
E	<ul style="list-style-type: none"> 教員との会話の中で、自分が経験したことを簡単な文章で答えることができるが、相手の話を聞いて、質問をしたり、相槌をうったりして、話をつなぐことは難しい(知) 教員と一対一で会話をしている際、聞く態度に注意しながら、相手の話に興味や関心をもって聞くことができる(思) 	<ul style="list-style-type: none"> 相槌や質問を繰り返すことにより、会話が弾み、会話が楽しくなることに気づくことができる(知) 聞き手として、話し手と視線を合わせたり、頷いたりしながら話し手の話を聞くことができる(思) 話し手として、自分の話し方を振り返ったり、相手のよいところに気づいたりすることができる(思) 	<ul style="list-style-type: none"> 質問内容を提示し、繰り返し練習できる場を設定する 話を聞く態度のポイントを提示する 自分と相手が会話をしている動画をもとに振り返ることができるようにする

令和5年度 公開研究協議会
国語チームの実践

	<ul style="list-style-type: none"> 発表などの場面で言葉を使って、自分の考えを伝えることができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> (思) 質問内容を明確にして、教員や友だちと対話することができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> うにする 楽しく言語活動ができる場面を設定する
F	<ul style="list-style-type: none"> 教員との会話の中で、自分が経験したことを簡単な文章で答えることができるが、相手の話を聞いて、質問をしたり、相槌をうったりして、話をつなぐことは難しい (知) 教員と一対一で会話をする際、聞く態度に注意しながら、相手の話に興味や関心をもって聞くことができる (思) 言葉を使いながら、積極的に人と関わったり、自分の考えを伝えたりすることができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相槌や質問を繰り返すことにより、会話が弾み、会話が楽しくなることに気づくことができる (知) 聞き手として、話し手と視線を合わせたり、頷いたりしながら話し手の話を聞くことができる (思) 話し手として、自分の話し方について振り返ったり、友だちの話を聞く態度や質問の仕方よさに気づいたりすることができる (思) 質問内容や聞き取りたい内容を明確にして、教員や友だちと対話することができる (学) 	<ul style="list-style-type: none"> 対話の仕方の見本を提示し、模倣できる場面を設定する 話を聞く態度のポイントを提示する 自分と相手が会話をしている動画をもとに振り返ることができるようにする 楽しく言語活動ができる場面を設定する

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(学) …「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標 (評価の観点)

- ・相手の話の内容や話し方に関心を持ち、自分なりの考えをもつことができる

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習活動	支援および留意点
10:45	1. はじまりのあいさつ	・学習内容を確認する
10:50	2. スモールトーク (よ〜く聞いて、話して) ・話を聞く姿勢や態度、質問の仕方を確認する ・友だちと一対一で質問し合う ●トークテーマ『明日の予定』 A:明日は何する予定?(質問) B:明日は買い物に行くよ(応答) A:いいね(相槌スタンプカード)B:〇〇さんは?(質問) A:私はおばあちゃん家に行くよ(応答) B:お~,なるほど!(相槌スタンプカード)	・ポイントを確認できるように教員のデモストレーションを提示する ・生徒同士の聞き合いの中で、よい点を言語化し、全体で共有する ・聞き手の相槌や質問によって、もっと話したくなることや相手について知らなかったことを知ることができることのよさを強調して伝える
11:00	3. ・話を聞く姿勢や態度、質問の仕方を確認する	
11:05	・友だちと一対一で、お互いの経験について聞き合う ●トークテーマ『夏と冬はどっちが好き?』 A:〇〇さんは夏と冬はどちらが好きですか?(質問) B:夏です(応答) A:なるほど~(相槌) どうして夏が好きなのですか?(質問) B:夏は水泳ができるからです(応答) A:確かに~(相槌) どこで水泳をするのですか?(質問) B:家の近くのプールに行きます A:いいね~(相槌) …Bが質問をしていく 患:聞く姿勢や態度(視線、頷く)	・相槌や質問するときを使うとよい言葉を視覚的に提示する ・会話の様子をipadで動画を撮影する ・一人3~4回の質問で、お互いの経験を聞き合うことができるようにする ・生徒の興味や関心をもって聞く態度(視線を合わせる、頷くなど)を言語化し、互いにより行動を取り入れることができるようにする。生徒にそのような行動が見られない場合は、STが手本を示す ・質問の仕方に困っている場合は、ホワイトボードの質問項目を確認したり、生徒が聞いてみたいことを一緒に考えたりする ・聞き手の相槌や質問によって、もっと話したくなることや相手について知らなかったことを知ることができることのよさを強調する
11:15	・動画を見ながら、相手の話を聞く姿勢や態度、質問などのよかったことを考える 患:振り返りの視点	・聞き合うことに重点を置くため、ワークシート上には選択肢を設けるなど簡略化する
11:30	4. 言語活動② (ほめほめじゃんけん) ・じゃんけんをして勝った方から相手のよかったところを伝える	・友だちの言動を肯定的に捉え、自分の言動に取り入れることができるような言葉かけをする ・生徒がよかった場面を想起できるよう、具体的に場面や言動を伝える
11:35	5. おわりのあいさつ	・次回の学習内容を確認する

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

・相手の話の内容や話し方に関心を持ち、自分なりの考えをもつことができる（思考・判断・表現）

	A	B	C	D	E	F
評価者	ST1	ST2	ST2	ST1	ST1	ST2
評価 患						
備考						

単元名「場所を伝えてみよう」

授業者 白取和浦、竹本真弓

1. 対象

中学部7名（1年1名、2年3名、3年3名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 3校時（10時45分～11時35分）、中A教室

3. 単元設定の理由

本グループの生徒は、主に特別支援学校学習指導要領中学部第1段階にあたる学習をしてきた。これまで扱った単元全体では、5月に『自己紹介』に取り組み、自分の好きなものや興味のあるものについて話す時に、その理由や場面を加えて発表するようにし、聞き手にどの情報を伝えたらよいか、選択する学習をした。6月には『文章読解』に取り組み、登場人物の気持ちを想像したり、その時の感情を考え、セリフを言ったりして、人の気持ちについて考える学習をした。7月には『ことばで道案内』に取り組み、地図から進む方向や位置関係などを相手に伝える難しさを経験した。

これまでの単元をふまえて、本単元では、「分かりやすさ」に重点を置き、道案内をするために必要な表現、位置関係を示す言葉などを使い、文章を構成し、発表する活動に取り組むこととした。どのような言葉を使ったら相手に伝わりやすいか、相手にとってどのような表現が分かりやすい表現かなど、相手のことを考えて情報を伝えるスキルを身につけることをねらいとしている。簡単な地図を用いて、語群から言葉を選び、穴埋め式のワークシートに当てはめていく学習から始めることで、どの言葉を使って文章をつくればいいか考えやすくしている。文章構成は「○○のとなりにあります」「○○の向かい側にあります」「○○と○○の間にあります」の3パターンをワークシートに示し、地図を参照しながら、取り組んでいる。現在は、穴埋めワークシートに書き始めた段階であり、習熟度によっては白紙の枠に書くことに移行していく段階である。書いた後は、ペアで道案内のロールプレイングを行い、店舗の場所を聞く側と道案内をする側に役割を分担し、尋ねられた場所を答え、聞いた側の生徒が「着きました」と答えることで、教えた側の生徒が「相手に伝わった」という達成感を感じられるようにし、定着を図っている。伝わった後は、役割を交代し、お互いに教える経験を積めるようにしている。最終的には地図だけを持った状態で自分の思った場所まで口頭で伝えられたり、複雑な地図でも視覚的に捉えた情報を整理して状況に応じた表現を考えたりできるようになってほしいと考えている。見る→考える→書く→伝えるという流れの中で、地図の情報を伝える経験を経て、自分の見聞きしたことや考えや思いを相手に分かりやすく、かつ相手の気持ちを考え、表現できるようになるとよいと考えている。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	・場所を示す表現を考え、相手に分かりやすく伝えることができる	・道案内に必要な言葉を考え、分かりやすい文章を作ることができる	・発表を聞き、自分の文章との違いに気付くことができる

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	A：その場で文章を自分で考え、相手に分かるように伝えている B：自分の文章を読んで、相手に分かるように伝えている C：相手に分かる発表ができない	発表 話す姿勢
思考・判断・表現	A：道案内に必要な言葉を自分で考え、文章を作っている B：道案内に必要な言葉を語群から選び、文章を作っている C：道案内の文章を作ることができない	ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	・相手に伝わりやすい表現を考えている ・他者の発表を聞こうとしている ・発表を聞き、自分の文章との違いに気付こうとしている ・他者の観点や意見を受け入れて、お互いに認め合っている	発表 聞く姿勢

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
1 2 3	「場所を伝える表現を考えよう」 ・地図を見て、「となりにある」「向かい側にある」 「間にある」 を使って文章を作る		○	↓
4 5 6 (本時)	「ことばで道案内してみよう①」 ・文章を考え、友だちに伝える	○		
7 8	「ことばで道案内してみよう②」 ・自分のいる場所を友だちに伝える	○		

注：(知) … 「知識・技能」，(思) … 「思考・判断・表現」，(主) … 「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に捉えた情報について、知っている言葉を使って、文章で伝えようとする(知) ・見本などを参考にしつつ、書き出し方や内容を確認しながら文章を書くことができる(思) ・自分が作った複数の文章を見比べて違いに気づけることがある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれた場所について、地図や自分の文章を見て、場所を伝えることができる(知) ・地図をみて、位置関係を示す表現を使いながら、分かりやすい文章を書くことができる(思) ・他者の発表を聞きながら、自分の文章との違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの表現なら相手に伝わるか考えられるように地図に注目するよう促す ・文章を作る時に、何を書けばよいのかを一緒に確認する
B	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に捉えた情報を整理することで、文章で伝えることができる(知) ・書き出し方や何を書くのか確認することで、見本を参考にして文章を書くことができる(思) ・自分が作った複数の文章を見比べて違いに気づけることがある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれた場所について、地図や自分の文章を見て、場所を伝えることができる(知) ・地図をみて、位置関係を示す表現を使いながら、分かりやすい文章を書くことができる(思) ・他者の発表を聞きながら、自分の文章との違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの表現なら相手に伝わるか考えられるように地図に注目を促す ・書き出す前に見本や使う表現についてプリントで確認するよう伝える
C	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に捉えた情報について単語をつなげ自分なりの表現を使って伝えようとする(知) ・助詞や内容のまとめ方に支援が必要だが、自分の知っている言葉を使って文章を書くことができる(思) ・他者の発表を聞き、自分の文章と比べ、違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれた場所について、地図だけを見て、場所を伝えることができる(知) ・地図をみて、場所に合った表現方法を考えながら、分かりやすい文章を書くことができる(思) ・ペアでのやりとりや他者の発表を聞きながら、自分の文章との違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置を伝える時にどの表現が適しているか考えるように伝える ・位置関係に注目を促し、分かりやすく示す表現を考えて、書き出すように伝える
D	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に捉えた情報をすぐに分かりやすい文章にするのは難しいが、単語をつなげて伝えようとする(知) ・定型文などの見本を参考にしながら文章を書くことができる(思) ・自分が作った複数の文章を見比べて違いに気づけることがある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれた場所について、地図や自分の文章を見て、場所を伝えることができる(知) ・地図をみて、位置関係を示す表現を使いながら、分かりやすい文章を書くことができる(思) ・他者の発表を聞きながら、自分の文章との違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの表現なら相手に伝わるか考えられるように地図に注目するよう促す ・使うべき表現や進む方向などについて一緒に確認する
E	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に捉えた情報を伝える時には単語や表し方を支援することで伝えることができる(知) ・書き出し方や何を書くのか確認することで、見本を参考にして文章を書くことができる(思) ・自分が作った複数の文章を見比べて違いに気づけることがある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれた場所について、地図や自分の文章を見て、場所を伝えることができる(知) ・地図をみて、進む方向や位置関係を意識して、分かりやすい文章を書くことができる(思) ・他者の発表を聞きながら、自分の文章との違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの表現なら相手に伝わるか考えられるように地図に注目するよう促す ・書くときに必要な言葉、文章構成について確認しながらすすめるようにする
F	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に捉えた情報について単語をつなげ自分なりの表現を使って伝えようとする(知) ・見本を参考にし、自分の知っている言葉を使って文章を書くことができる。(思) ・他者の発表を聞き、自分の文章と比べ、違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれた場所について、地図だけを見て、場所を伝えることができる(知) ・地図をみて、場所に合った表現方法を考えながら、分かりやすい文章を書くことができる(思) ・ペアでのやりとりや他者の発表を聞きながら、自分の文章との違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置を伝える時にどの表現が適しているか考えるように伝える ・位置関係に注目を促し、分かりやすく示す表現を考えて、書き出すように伝える
G	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に捉えた情報について単語をつなげ自分なりの表現を使って伝えようとする(知) ・見本などを参考にしつつ、書き出し方や内容を確認しながら文章を書くことができる(思) ・他者の発表を聞き、自分の文章と比べ、違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれた場所について、地図だけを見て、場所を伝えることができる(知) ・地図をみて、場所に合った表現方法を考えながら、分かりやすい文章を書くことができる(思) ・ペアでのやりとりや他者の発表を聞きながら、自分の文章との違いに気づくことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置を伝える時にどの表現が適しているか考えるように伝える ・進む方向や視点の向きなど気を付けるように言葉かけをする

注：(知) … 「知識・技能」， (思) … 「思考・判断・表現」， (学) … 「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・地図を見て、分かりやすい表現で相手に場所を伝えることができる（知）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
10：45	○はじめのあいさつ ・前回の振り返り ・本時の活動について知る	
10：55	○場所を伝える文章パターンを確認する ①となりにあります ②向かい側にあります ③間にあります ・指定されたお店や場所を①、②、③のパターンの中から選択し、発表する	・これまでの学習を振り返られるように、パターンを1つずつ確認していく
11：05	○場所を伝える文章を書く ・ワークシートに取り組む	・実態に応じて、穴埋め式か白紙のワークシートを選択できるようにする ・書いた後、見直しをするように促す
11：15	○発表 ・ワークシートの中から1つ選び、作った文章を発表する	・発表を聞きながら、手元の地図を見て、文章が合っているか確認するよう促す ・学習してきた3パターン以外の表現が出てきた時には、全体で共有し、確認する
11：20	○ロールプレイング ^知 ・ペアになり、道案内のやりとりをする A「○○はどこにありますか？」 B「○○は…」	・ペア決めや役割分担は話し合っ決めて伝える ・道案内を聞いて場所にたどり着けた時は「着きました」と返答することを伝える ・たどり着けなかった時は、どこが違ったのか全体で意見を出し合い考える
11：30	○本時の振り返り、次回の予告 ・本時の振り返り ・次回取り組む内容を知る	・学習したことを振り返り、身につけてほしい力や活かしてほしい場面について伝える
11：35	○おわりのあいさつ	

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G
評価		
備考		

単元名「中学部2023年問題②」

授業者 野村亮介、中辻大樹

1. 対象

中学部6名（1年3名、2年2名、3年1名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 3校時（10時45分～11時35分）、 中学部C組教室

3. 単元設定の理由

本校中学部の国語科は、学習の習熟度や認知の実態別に縦割りの3グループに分かれている。本グループは、その中でも習熟度が高い学習集団で、特別支援学校学習指導要領2段階の内容に取り組んでいる。

「聞くこと・話すこと」について、1学期には、相手の伝えたい内容や自分が必要だと思う内容を、話の中から聞き取って書き留めたり、内容の大体を理解したりする経験を積むために、メモを取る学習に取り組んだ。また、言語によるコミュニケーションが活発な集団だが、話し合い活動となると、話題がそれてしまったり、考えや理由が定まらないまま意見を発表して、話し合いが進まなかったりするという実態があった。そこで2学期には、話し合いのなかで、考えと理由を明確に友だちに伝える活動を経験してきた。そして、今回3学期は、これまでの学習を生かして、話し合いで考えをまとめることを目指すこととした。中学部では、話し合い活動を各クラスで行うことが多く、どの生徒もある程度経験している。しかし、話し合いで考えをまとめるという経験は、まだまだ足りないと考える。なぜなら、各クラスでの話し合いは、お互いの意見や希望を発表しあい、どれが良いか、という対立関係になり、最終的に誰かが譲歩する形となることが多い。この場合、一部の意見は採用されるが、その他の意見は採用されない形となり、全員が納得した結論とは言い難い。本単元では、話し合い活動のねらいとなる「考えをまとめる」こと、つまり合意形成を図る過程を経験することで、今後、クラスの話し合いでまとめ役となったり、日常生活で生かしたりできるようになることを願っている。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	・考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解できる 【特別支援学校学習指導要領 中学部2段階 (2) 内容 イ (ア)】	・「聞くこと・話すこと」において、物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめることができる 【特別支援学校学習指導要領 中学部2段階 (2) 内容 A 聞くこと・話すこと オ】	・言葉がもつよさに気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとすることができる 【特別支援学校学習指導要領 中学部2段階 (1) 目標 ウ】

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：自分の意見が伝わるように、話す事柄（考え・理由・具体例など）の順序を工夫して発表し、聞いた人のボードが青か赤になっている（黄色がない）</p> <p>B：「～だから」や「理由は～」など、自分の考えに理由をつけて発表している</p> <p>C：自分の考えだけを発表している</p>	発言 質問 話し合い活 性化ボード
思考・判断・表現	<p>A：「つまり」や「〇〇というのはどうですか」などを用いて、考えをまとめたり、新しい考えを提案したりして、全員のボードが青色になっている</p> <p>B：原稿をもとに、ボードの色に応じて「どこが同じか」や「どこが違うか」などと質問し、共通点と相違点を確認しながら話し合いを進めている</p> <p>C：ボードでお互いの考えの共通点や相違点を確認せず、一方的に自分の考えを発表している</p>	発言 質問 話し合い活 性化ボード
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に自分の考えを発表したり、質問したりしている ・友だちの意見発表の際、自らボードを操作しようとしている ・ボードが黄色（「わからない・悩む」）の友だちに伝わるように、言葉を選びながら、自分の意見や理由を粘り強く説明しようとしている ・考えがまとまるように、お互いの意見の共通点や相違点を見付けようとしたり、新しい意見を出そうとしたりしている 	発言 質問 話し合い活 性化ボード

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
1	「話し合いで必要なことを確認しよう」 ・考えと理由を合わせて発表することを確認する ・話し合い原稿と話し合い活性化ボードを用いた、考えのまとめ方について確認する	○		↓
2	「話し合いをまとめよう①」 ・話し合いのテーマを決める ・話し合い原稿をもとに話し合いをする ・考えをまとめる		○	
3	「話し合いをまとめよう②」 ・話し合いのテーマを確認する ・話し合い原稿をもとに話し合いをする ・考えをまとめる		○	
4	「話し合いをまとめよう③」 ・話し合いのテーマを確認する ・話し合い原稿をもとに話し合いをする ・考えをまとめる		○	
5 本時	「話し合いをまとめよう④」 ・話し合いのテーマを確認する ・話し合い原稿をもとに話し合いをする ・考えをまとめる		○	
6	「話し合いのまとめ方を確認しよう」 ・話し合いで大切なことを確認する ・考えをまとめるために必要なことを確認する	○		

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(主) …「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 発表方法に沿って、自分の考えと理由を伝えることができる(知) 友だちの意見を聞き、賛成か反対かを伝えたり、テーマに沿った考えを発表したりできる(思) 気になることを教員に質問したり、決められた方法で発表したりできる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや理由が伝わるように、話す順序を整理して発表することができる(知) ボードを確認しながら、共通点や相違点を見つけるために、原稿をもとに質問したり、自分の考えを伝えたりすることができる(思) 自ら進んで友だちに質問しようとしたり、自分の考えを伝えようとしたりすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 声量を大きくするように言葉かけをする 共通点や相違点に気付くことができるように言葉かけをする
B	<ul style="list-style-type: none"> 発表の定型文をプリントで確認すると、考えと理由を伝えることができる(知) 友だちの意見を聞き、賛成か反対かを伝えたり、テーマに沿った考えを発表したりできる(思) 気になることを質問したり、言葉を選びながら自分の気持ちを伝えたりすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや理由が伝わるように、話す順序を整理して発表することができる(知) 全員のボードが青になるように、自分や友だちの意見の共通点と相違点を踏まえて新しい案を発表することができる(思) 全員のボードが青色になるように粘り強く説明しようとしたり、意見を出そうとしたりすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを整理できるようにするために言い換えて発問する ボードを確認するように言葉かけをする 共通点と相違点を整理できるように、発問する
C	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと理由を伝えることができる(知) 友だちの意見を聞き、賛成か反対かを伝えることができる(思) 友だちの話に相槌をうったり、気になることを質問したりできる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 考え、理由、具体例の項目を、自ら順序を工夫して話すことができる(知) 全員のボードが青になるように、自分や友だちの意見の共通点と相違点を踏まえて新しい案を発表することができる(思) 考えがまとまるように、お互いの意見の共通点や相違点を見付けようとしたり、新しい意見を出そうとしたりすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 発言の際の約束を確認する 共通点や相違点に気付くことができるように言葉かけをする
D	<ul style="list-style-type: none"> 話す事柄を教員と一緒に言い換えて整理すると、自分の考えを伝えることができる(知) 友だちの意見や質問に対して自分の考えを伝えることができる(思) 気になることを質問したり、言葉を選びながら自分の考えを伝えたりできる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとそれを支える理由を伝えることができる(知) ボードを確認しながら、共通点や相違点を見つけるために、原稿をもとに質問したり、自分の考えを伝えたりすることができる(思) 言葉を選びながら、粘り強く自分の考えを伝えようとしることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 発表態度を確認する 自分の考えを簡潔に伝えられるように、言い換えなどの言葉かけをする 机上整理を促す
E	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい議題に対して、自分の考えを伝えることができる(知) テーマを確認したり、質問されたりすると自分の考えを伝えることができる(思) 友だちの発表を聞いてメモを取ろうとしたり、質問に対して自分の考えを説明したりできる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとそれを支える理由を伝えることができる(知) 友だちの意見に対する自分の考えをボードに表したり、原稿をもとに質問したりすることができる(思) 自ら進んで友だちに質問しようとしたり、自分の考えを伝えようとしたりすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 原稿を見るように言葉かけをする 発表態度の確認をする 発表内容に自信をもつことができるように肯定的な言葉をかける 友だちの意見を聞くように言葉かけをする
F	<ul style="list-style-type: none"> 興味のあることについて、自分の考えを伝えることができる(知) テーマを確認すると自分の考えを伝えることができる(思) 友だちの話に相槌をうったり、気になることを質問したりできる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 原稿に沿って自分の考えとそれを支える理由を伝えることができる(知) 友だちの意見に対する自分の考えをボードに表したり、原稿をもとに質問したりすることができる(思) 言葉を選びながら、粘り強く自分の考えを伝えようとしることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 発言の際の約束を確認する 原稿を確認するように言葉かけをする 落ち着いて発表できるように言葉かけをする

注：(知) … 「知識・技能」，(思) … 「思考・判断・表現」，(学) … 「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・話し合い原稿をもとに質問したり、提案したりして、考えをまとめる（思考・判断・表現）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
10:46	<p>○あいさつ</p> <p>○前時までの復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで話し合ってきた内容について確認する ・話し合い原稿と話し合い活性化ボードの使い方について確認する ・発表の時は、考えと理由を伝えることを確認する <p>○本時の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の話し合いテーマを確認する ・話し合いの約束や手順を確認する ・司会を決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・机上整理を促す ・スライドを提示しながら、前時までの学習内容を想起できるよう発問をする
10:55	<p>○話し合い活動 愚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い原稿をもとに話し合いを行う ・自分の考えと理由を発表する ・友だちの発表を聞き、自分の考えをボードに表す ・友だちに質問をする ・友だちに伝わるように伝え方を工夫する ・それぞれの意見の共通点や相違点を見つける ・考えをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かが発表する前にボードを定位置に戻すように言葉かけをする ・発表回数が少ない生徒には、考えを整理できるように、言葉かけや発問を行う ・考えがまとまってきていることがわかるように、共通点や相違点など、話し合いのまとめにつながる発言を拾い、板書して残す
11:30	<p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の発表態度や回数を記入する ・今回の話し合いの感想を発表する <p>○あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えをまとめる過程を経験していることや今後の生活で生きること気付くことができるように、振り返りを行う ・机上整理を促す

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F
評価	
備考	

単元名「耳にたこができた!？」

授業者 平山陽子、伊藤巧

1. 対象

高等部9名(1年4名、2年2名、3年3名)

2. 日時・場所

令和6年1月27日 3校時(10時45分~11時35分)、高等部C組教室

3. 単元設定の理由

本グループの生徒は男子4名、女子5名の合計9名で構成されている。昨年度まで同じグループで学習していた2、3年生の中に、新たに1年生の4名が加わった形で学習がスタートした。身近な漢字を読んだり書いたりできる生徒やひらがなをゆっくり読んだり書いたりする生徒、5W1Hを使って文を作る生徒や一問一答形式で気持ちを表す生徒などさまざまな実態の生徒がいるグループである。

高等部の生徒は、卒業後を見据えた学習の一つとして、普段の学校生活はもちろん、企業等での現場実習や校外学習などで様々な人と関わる経験を積んでいる。そこで、言語文化の一つであることわざと慣用句の意味や使い方を知り、ふさわしい場面で使うことで、日常生活や職場などでの円滑な人間関係の構築やよりよい社会生活を送ることができると考えた。

本単元では、学習指導要領の高等部1段階からことわざと慣用句を取り扱い、普段耳にする言葉の意味は何か、どういった時に使うのかを学習していく。さらに、元の意味とは違った言葉の使い方を学ぶことで、物語などで表現されている人の行動や心情を読み取ったり、自分の経験や思いや考えを伝えたりする体験をさせたい。

言葉の意味理解や活用を促すため、その言葉が使われる場面を劇仕立てで演じる体験をしたり、言葉にあった場面を自分達で考えたりと、文化祭で発表した演劇の経験を生かし活動を展開していく。具体的な場面を演じることで、意味や場面をイメージするだけでなく、日常生活や会話での活用・般化を目指す。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none">・表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使う一高1ア(エ)・生活に身近なことわざや慣用句などを知り、使う一高1ウ(ア)	<ul style="list-style-type: none">・「読むこと」において、人物の行動や心情などについて、叙述を基に捉える一高1Cア・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ一高1Cオ	<ul style="list-style-type: none">・言葉がもつよさを認識するとともに、思いや考えを伝えあおうとする

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：・いろいろなことわざの意味を理解している ・体の名称を使った慣用句の使い方の違いを説明している ・慣用句を使って前後のまとまりのある文章を作っている</p> <p>B：・自分でことわざを選び、その意味を理解している ・2つ以上のことわざの意味を理解している ・体の名称を使った慣用句を選び、その意味を説明している ・慣用句を使って文を作っている</p> <p>C：・ことわざの意味が理解できない ・慣用句の意味を説明できない ・慣用句を使った文を作れない</p>	ワークシート 会話でのやりとり クイズ
思考・判断・表現	<p>A：・文章を読み、人物の行動や心情とその変化を自分の経験と照らし合わせている ・文章の全体を理解し、自分の感じたことを言ったり書いたりしている</p> <p>B：・文章の中から人物の行動や心情などを捉えられる部分を選んでいる ・文章の一部を理解し、自分の感じたことを言ったり書いたりしている</p> <p>C：・文章の中から人物の行動や心情などを捉えられる部分がない ・文章を読み、自分の感想を書いたり言ったりすることができない</p>	ワークシート 会話でのやりとり 劇
主体的に学習に取り組む態度	<p>・学んだことわざや慣用句を使って自分の思いや考え、出来事などを伝えようとしている</p> <p>・図書に親しみ、初めて知る語句や何気なく使っている語句を調べて考えようとしている</p>	友達同士での会話 作文 行動観察

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
1 2	○ことわざを知ろう！ ・なじみのあることわざの意味を知る ・ことわざが表している場面を絵や劇で表す	○		↓
3 4	○ことわざに親しもう！ ・ことわざが使われる場面を体験したことや想像したこと と結び付けて表現する ・場面に合ったことわざを選ぶ		○	
5 6	○慣用句を知ろう！ ・聞いたことのある慣用句の意味を知る ・体の名称を用いた慣用句の違いや使い方を知る	○		
7 8 (本時) 9 10	○慣用句に親しもう！ ・慣用句を使った文を作る ・慣用句を使う会話や場面を劇で表現する ・ことわざや慣用句が使われている物語文を読み、行動や 心情などを捉える ・文を読んでイメージしたことや自分の考えを友達に伝える		○	

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(主) …「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を理解している(知) ・手がかりをもとに、場面や人の状態を表す言葉を見つけることができる(思) ・自分の思いや考えをキーワードで言葉にしたり文字で書いたりして伝えている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手がかりをもとに、ことわざや慣用句を適切に使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から、人の状態を言葉で説明したり実際に様子を表したりする(思) ・学んだことわざや慣用句を使って作文したり会話したり、自分なりに活用する(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を指さし、注目を促す ・やりとりを通じて言葉や考えを引き出す
B	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を理解して使うことができる(知) ・場面や人の状態を表す言葉を見つけ、その言葉を根拠に説明することができる(思) ・状況に応じて流行語も取り入れながら作文を書いたり友達と会話をしたりしている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく使われることわざや慣用句の意味を理解し、ふさわしい場面で使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から人の行動や心情を読み取り、自分の考えを伝える(思) ・学んだことわざや慣用句を使った表現を作文や会話に取り入れる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面をイメージできる言葉かける
C	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を理解して使うことができる(知) ・場面や人の状態を表す言葉を見つけ、その言葉を根拠に説明することができる(思) ・作文や会話を通して自分の思いや考えを伝えている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのことわざや慣用句を使う場面を理解し、適切に使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から、場面や人の状態を読み取って説明する(思) ・学んだことわざや慣用句を使った表現を作文や会話に取り入れる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むための順序を示す

令和5年度 公開研究協議会
国語チームの実践

D	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を概ね理解して使うことができる(知) ・手がかりをもとに、場面や人の状態を表す言葉を見つけることができる(思) ・会話を通して自分の思いや考えを伝えている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手がかりをもとに、ことわざや慣用句を適切に使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から、人の状態を言葉で説明したり実際に様子を表したりする(思) ・学んだことわざや慣用句を使って作文したり会話したり、自分なりに活用する(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を指さし、注目を促したり一緒に音読したりする ・やりとりを通じて言葉や考えを引き出す
E	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を概ね理解して使うことができる(知) ・手がかりをもとに、場面や人の状態を表す言葉を見つけることができる(思) ・会話を通して自分の思いや考えを伝えている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手がかりをもとに、ことわざや慣用句を適切に使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から、人の状態を言葉で説明したり実際に様子を表したりする(思) ・学んだことわざや慣用句を使って作文したり会話したりと自分なりに活用する(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードから導けるよう穴埋めや選択肢を提示したり、注目させたい言葉に線を引いたりする
F	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を理解して使うことができる(知) ・場面や人の状態を表す言葉を見つけ、その言葉を根拠に説明することができる(思) ・会話を通して自分の思いや考えを伝えている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手がかりをもとに、ことわざや慣用句を適切に使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から、場面や人の状態を読み取って説明する(思) ・学んだことわざや慣用句を使って作文したり会話したり、自分なりに活用する(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージをどう言葉や文に表せばよいか、やりとりを通じて引き出す
G	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を理解して使うことができる(知) ・場面や人の状態を表す言葉を見つけ、その言葉を根拠に説明することができる(思) ・知っている言葉を使って作文を書いたり友達と会話したりしている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのことわざや慣用句を使う場面を理解し、適切に使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から、場面や人の状態を読み取って説明する(思) ・学んだことわざや慣用句を使った表現を作文や会話に取り入れる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモに書いたり線を引いたりすることで自分にとってわかりやすくなることを伝える
H	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を理解して使うことができる(知) ・場面や人の状態を表す言葉を見つけ、その言葉を根拠に説明することができる(思) ・知っている言葉や調べて新しく知った言葉を使って作文したり友達や教員と会話したりしている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく使われることわざや慣用句の意味を理解し、ふさわしい場面で使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から人の行動や心情を読み取り、自分の考えを伝える(思) ・学んだことわざや慣用句のほか、自分で調べたり人に聞いたりした言葉を作文や会話に取り入れる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アニメや物語の世界の話でもよいことを伝え、言葉や場面を引き出す
I	<ul style="list-style-type: none"> ・名称や状態など、言葉そのものの意味を理解して使うことができる(知) ・場面や人の状態を表す言葉を見つけ、その言葉を根拠に説明することができる(思) ・状況に応じて流行語も取り入れながら作文を書いたり友達と会話をしたりしている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのことわざや慣用句を使う場面を理解し、適切に使う(知) ・ことわざや慣用句が使われている文章や会話から人の行動や心情を読み取り、自分の考えを伝える(思) ・学んだことわざや慣用句のほか、自分で調べたり人に聞いたりした言葉を作文や会話に取り入れる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージがしやすいよう、やりとりを通じて日常生活での場面を引き出す

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(学) …「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・慣用句を使った文から、人物の行動や心情を捉える（思考・判断・表現）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
10：45	○あいさつ、本時の内容確認 ○前回までの復習 ・慣用句の意味 ・慣用句を使った文の紹介	・前回までに使用したプリントをもとに確認をする
10：50	○やってみよう ・慣用句を使った場面を演じる ・人物の行動や心情を考える	・自分の経験と結び付けて考えられるような言葉をかける
11：00	○考えよう 愚 ・慣用句の意味を確かめる ・慣用句を使った文を作る ・慣用句を使った劇を作る	・見て確認ができるよう、言葉とその意味がわかる資料を手元に提示する ・見本や例を提示し、イメージを持たせる ・プリントに記入ができていないか、机間巡視をして確認する
11：20	○発表しよう 愚 ・作った文を発表する ・作った劇を発表する	・発表者に注目するよう言葉をかけ、聞くこと、見ることに集中を促す ・必要に応じて、伝えたい内容をかみ砕いて説明する
11：35	○あいさつ	

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G	H	I
評価				
備考				

単元名「Catch」

授業者 加賀谷 聖、宮田 佳奈

1. 対象

高等部8名（1年2名、2年4人、3年2名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 3校時（10時45分～11時35分）、高等部A組教室

3. 単元設定の理由

本グループは、男子3名、女子5名の合計8名で構成されている。今年度は、自分の考えや読み取ったことを文章で表現する活動に取り組んできた。本グループは、自分の思いや考えを意欲的に他者に伝えることができる。一方で、他者の意見を取り入れて、話を深めたりする面が弱く、授業においても学びあえる場面があまり見られないのが現状である。そこで、「自分の思いや考えを伝え合い、互いに学び合える」授業づくりのために、友だちと意見を伝え合う学習場面の設定が必要だと考えた。

本単元では、特別支援学校学習指導要領高等部国語科「B書くことア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。」に取り組む。「伝え合う」学習では、何を伝えたいのかを明らかにすることで、聞き手にも伝わり、意見の交流が活発になる。したがって、「聞くこと」「話すこと」だけに焦点を当てるのではなく「読むこと」「書くこと」との領域間の関連を図っていききたい。文章の構成や展開を正確にとらえる力や、優れた表現に触れさせ、それを自分の表現に生かす学習を通して論理的に物事を考えたり、書いたりする力を育てていききたいと考え

「商品名及びキャッチコピー」を題材にした。「キャッチコピー」の良さは、「書きたいこと」が明確に存在し、「相手に伝える」ということを強く引き出すことができる題材である。これは他者とのやりとりで表現を広げることを目標にしているグループの実態にも適していると言える。今回、地域のパン屋さんの協力を得て、お店のパンに実際に「商品名及びキャッチコピー」を考えて、提案する機会を得た。身近な題材を取り上げることで、伝える相手をより強く意識できると考えた。このように、相手に伝える学習活動を通して、書くことの楽しさや表現することの喜びを感じてほしいと考えこの単元を設定した。


4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	・ キャッチコピーを伝え合うことを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる	・ キャッチコピーを作ることを通して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすることができる	・ 言葉がもつよさを認識するとともに、国語を大切して、思いや考えを伝え合おうとすることができる

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	A：友だちの表現の良さを、発表を通じて伝えている B：表現技法がもつ働きを理解して表現している C：表現技法を使っていない	ワークシート 発言・発表 STの記録 キャッチコピー
思考・判断・表現	A：短い言葉で説得力が感じられる表現をしている B：短い言葉で表したいことを表現している C：長い言葉で印象に残らない表現をしている	ワークシート 発言・発表 STの記録 キャッチコピー
主体的に学習に取り組む態度	・表現したい言葉について気付いたことを友だちに伝えている ・ワークシートに気付いたことを書いている ・表現技法を使ってキャッチコピーを作成している ・友だちの発表を聞いて共感している	ワークシート 発言 発表 キャッチコピー

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
				
1	「キャッチコピーってなに？」 ・キャッチコピーの例を確認し、短い言葉で印象的に表現する効果を知る	○		
2	「これがキャッチコピー！」 ・どんなキャッチコピーが使われているか実際に外に見に行く ・優れたキャッチコピーの条件を確認する	○		
3 本時	「君たちはどう感じるか」 ・見て・聞いて・触って・食べてオノマトペを表現する	○		
4	「キャッチコピーの評論家！」 ・宣伝動画をいくつか見て、何故印象に残るのか伝え合う	○		
5 6	「キャッチコピーを作ってみよう！」 ・自分の好きなキャッチコピーを付けて紹介する		○	
7	「振り返ろう」 ・友だちの考えを知り、自分の考えを広げる ・単元全体を振り返り、単元で身についた力についてまとめる		○	

注：(知) … 「知識・技能」， (思) … 「思考・判断・表現」， (主) … 「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちを表す語句が固定されている(知) 経験したことや想像したことから短い文を書くことができる(思) 質問に対して教員と一緒に考え、答えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> オノマトペが物の様子や音を表現する働きがあることに気付く(知) 表現の違いや感じ方に違いがあることに気付くことができる(思) 進んでキャッチコピーを作ろうとしている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードを導き出せるように選択肢を用意する 自分の考えを整理できるようにマッピングシートを使用する
B	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちを表す語句を使い文章を書くことができる(知) 経験したことや想像したことから短い文を書くことができる(思) 友だちの発表を聞いて、適切な感想をどのような場面でも伝え合うことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な技法を理解してキャッチコピーを作ることができる(知) 伝えたいことに合わせて表現技法を選ぶことができる(思) 互いのキャッチコピーの違いに気付いて表現の良さについて発表することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの表現に気付けるようにグループでできる話し合い活動を用意する 自分の考えを整理できるようにマッピングシートを使用する
C	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちを表す語句を使い文章を書くことができる(知) 経験したことや想像したことから短い文を書くことができる(思) 質問に対して教員と一緒に考えを答えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> オノマトペを理解して伝えたいことを表現できる(知) 友だちのキャッチコピーを比較して表現の違いや感じ方に違いがあることに気付くことができる(思) 進んでキャッチコピーを作ろうとしている(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを整理できるようにマッピングシートを使用する 発表場面では大きな声で伝えるよう言葉をかける
D	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちを表す語句を使い文章を書くことができる(知) 経験したことや想像したことから短い文を書くことができる(思) 教員や友だちの質問に対して自分の考えを答えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な技法を理解してキャッチコピーを作ることができる(知) 友だちのキャッチコピーを比較して表現の違いや感じ方を伝え合うことができる(思) 単元を通して友だちの表現の良さを発表することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを整理できるようにマッピングシートを使用する
E	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちを表す語句を使い文章を書くことができる(知) 経験したことや想像したことから短い文を書くことができる(思) 教員や友だちの質問に対して自分の考えを答えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 技法の特徴を捉え、効果的に友だちに伝えることができる(知) 伝えたいことに合わせて表現技法を選ぶことができる(思) 互いのキャッチコピーの良さに気付いて発表することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを整理できるようにマッピングシートを使用する
F	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちを表す語句を使い文章を書くことができる(知) 経験したことや想像したことから短い文を書くことができる(思) 友だちの発表を聞いて、適切な感想をどのような場面でも伝え合うことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 技法の特徴を捉え、効果的に友だちに伝えることができる(知) 友だちのキャッチコピーを比較して表現の違いや感じ方に違いがあることに気付くことができる(思) 単元を通して友だちの表現の良さをまとめることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの表現に気付けるようにグループでできる話し合い活動を用意する
G	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちを表す語句が固定されている(知) 自分の思いに引っ張られ、主題からそれてしまうことがある(思) 伝えたい気持ちが強すぎて、準備していたものと違う発表になってしまうことがある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な技法を理解してキャッチコピーを作ることができる(知) 短い言葉で表現技法を効果的に使ってキャッチコピーを作ることができる(思) 単元を通して友だちの表現の良さを発表することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 表現技法を取り入れられるように、自分が使った表現技法を説明できるワークシートを用意する
H	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちを表す語句を使い文章を書くことができる(知) 自分の思いに引っ張られ、主題からそれてしまうことがある(思) 伝えたい気持ちが強すぎて、準備していたものと違う発表になってしまうことがある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な技法を理解してキャッチコピーを作ることができる(知) 短い言葉で表現技法を効果的に使ってキャッチコピーを作ることができる(思) 互いのキャッチコピーの良さに気付いて発表することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 表現技法を取り入れられるように、自分が使った表現技法を説明できるワークシートを用意する

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(学) …「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標 (評価の観点)

- ・オノマトペが持つ表現の良さに気付くことができる (知識・技能)

(2) 本時の展開:【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
10:45	1. あいさつ 2. 前時までの復習 ・プリントやメモを見ながらどんなキャッチコピーがあったか確認する ・キャッチコピーを見て自分がどう考えたか確認する	・机上の整理を促す ・前回の学習内容を想起できるよう、スライドを提示する。
10:50	3. 感覚を使ってオノマトペ (知) ・グループに分かれて作ったオノマトペを発表し合う ・友だちとの表現の違いや良さについて気付いたことについて話し合う ①聞いて伝える ・日常でよく聞く音をオノマトペで表現する	・友だちとの表現の違いに楽しく気付けるようにゲーム形式にする
11:00	②触って伝える ・ブラックボックスに入った物をオノマトペで表現する	・より触覚の表現を言語化できるようブラックボックスを使う
11:15	③食べて比較する ・オノマトペが使われている商品名と自分の表現したオノマトペを比較する	・商品名は自分が感じたことを表現できるようにする
11:30	4. 振り返り ・オノマトペが持つ表現の良さを振り返る	・オノマトペを使った表現と使わない表現を比べることで、表現の良さに気付けるようにする
11:35	5. おわりのあいさつ	

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G	H
評価			
備考			

単元名「考えて伝えて高くして」

授業者 菅谷 雄馬、野口 拓

1. 対象

高等部9名（1年3名、2年3名、3年3名）

2. 日時・場所

令和6年1月27日 3校時（10時45分～11時35分）、高等部B組教室

3. 単元設定の理由

本グループの生徒は男子8名（1年3名、2年2名、3年3名）、女子1名（2年1名）の合計9名で構成されている。高等部の国語科の授業は習熟度別の縦割り3グループで展開しており、本グループは比較的習熟度の高いグループという位置づけである。本単元では高等部学習指導要領2段階「聞くこと・話すこと」に取り組んでいる。

本グループの生徒は、口頭での言語指示を理解し、友だちと会話を楽しんだり、自分の意見を言い合ったりすることができる。しかし、話の要点を捉え、話したいことを整理して話すことは苦手で、言葉が出なくなったり、論点がずれてしまったりして、本当に伝えたいことが伝わらないという場面もある。また、以前よりも意識できるようになってきているが、相手のことを考えずに自分の伝えたいように伝える姿が目立ち、伝えたいことを整理して、相手に伝わるように伝えることに課題がある。

ペーパータワーはルールがシンプルなので生徒たちが理解しやすく、目標達成に向けて生徒の課題意識が集中しやすい環境が生まれやすいと考える。今回はグループでのペーパータワーの建設を通して、自分たちの課題を分析し、改善点を話し合う中で相手に伝わるように伝え合っていくことをねらっている。時にはグループ全員の意見が同じにはならないこともあると思うが、グループとして意見をまとめていくことも大切にしたい。話し合いの際はワークシートを使用することで、自分・グループの考えや気持ちを整理し、いつでも視覚的に確認できるようにした。

高いタワーを建てるためには、『チームで協力し合うこと』『他のメンバーの意見に耳を傾けること』『役割分担をすること』が必要となり、ゲーム性のある活動を通して積極的にコミュニケーションをとることも期待している。

4. 単元目標

観点	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが伝わるように相手のことを考えて伝え方を工夫することができる ・互いの意図を明確にしなが、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつよさを認識し、進んで思いや考えを伝えようとするすることができる

5. 単元評価の具体的内容【見える化ステップ1】

観点	単元評価の具体的内容	評価方法
知識・技能	<p>A：全体の状況を見ながら自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりしながら、活動に取り組むことができている</p> <p>B：グループのメンバーに自分の考えを伝えながら活動に取り組んでいる</p> <p>C：黙って活動に取り組んでいる</p>	話し合い ペーパータワー
思考・判断・表現	<p>A：目的に応じて、グループの意見を比較したり分類したりして伝え合う内容を検討することができる</p> <p>B：自分の考えを相手に伝わるような表現に直し、わかりやすい方法で伝えている</p> <p>C：相手のことを意識せずに自分の考えだけを伝えている</p>	ワークシート 話し合い ペーパータワー
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えや他の人の考えを記入している ・自分から発言している ・ペーパータワーを建設している ・自分の意見を相手に伝えようとしている 	ワークシート 話し合い 発言 ペーパータワー

6. 単元の指導・評価計画【見える化ステップ2】

時数	学習活動	メインの評価観点に○		
		知	思	主
1	ペーパータワーを作ってみよう（個人）	○		↓
2	ペーパータワーを作ってみよう（グループ）	○		
3	もっと高くするには？作戦を考えよう		○	
4 (本時)	ペーパータワーを作ってみよう2（グループ）		○	
5	もっと高くするには？作戦を考えよう		○	
6	ペーパータワーを作ってみよう3（グループ）		○	
7	ペーパータワー作りを通して…	○	○	

注：（知）…「知識・技能」，（思）…「思考・判断・表現」，（主）…「主体的に学習に取り組む態度」

7. 個別の実態と学習計画

対象	学習前の実態	本単元の個別学習目標	個別の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝える際、言葉足らずになってしまうことが多い（知） 自分の考えを伝えることはできるが話の要点を捉えるのは苦手（思） 考えすぎてしまい自分の考えを伝えられないことがある（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝える際に語句の量を考えて伝えることができる（知） 自分の考えの中心が明確になるように整理してから相手に伝えることができる（思） 自分の考えをグループのメンバーに提案することができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする 提案を促す言葉かけや具体例の提示
B	<ul style="list-style-type: none"> 自分のペースで話してしまうことが多い（知） 自分の考えを伝えることはできるが相手のことを考えて伝えることは難しい（思） 自分の考えを伝えることはできるが他の人の意見を受け入れることが難しいこともある（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 相手が聞き取りやすいように間をとって話すことができる（知） 相手に伝わりやすい言葉や表現を考えて伝えることができる（思） 他の人の意見に耳を傾けることができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする 他の人の意見を聞くことを促す言葉かけ
C	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を使ってやり取りをすることができるが、敬語が使えないことがある（知） 自分の考えを伝えることはできるがわかりやすく整理して伝えることは苦手（思） 聞かれると自分の考えを伝えることができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中だということを意識して話すことができる（知） 自分の考えの中心が明確になるように整理してから相手に伝えることができる（思） 自分の考えをグループのメンバーに提案することができる（学） 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする 提案を促す言葉かけや具体例の提示

令和5年度 公開研究協議会
国語チームの実践

D	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝える際、言葉足らずになってしまうことが多い(知) 自分の考えを伝えることはできるが相手のことを考えられないことがある(思) 考えすぎてしまい自分の考えを伝えられないことがある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝える際に語句の量を考えて伝えることができる(知) 相手に伝わりやすい言葉や表現を考えて伝えることができる(思) 自分の考えをグループのメンバーに提案することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする
E	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を使ってやり取りをすることができるが語彙は少ない(知) 自分の考えを伝えることはできるがわかりやすく整理して伝えることは苦手(思) 自信のある時には自分の考えを伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝える際に語句の量を考えて伝えることができる(知) 自分の考えの中心が明確になるように整理してから相手に伝えることができる(思) 自分の考えをグループのメンバーに提案することができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする 提案を促す言葉かけや具体例の提示
F	<ul style="list-style-type: none"> 自分のペースで話してしまうことが多い(知) 自分の考えを伝えることはできるが相手のことを考えて伝えることは難しい(思) 自分の考えを伝えることはできるが他の人の意見を受け入れることが難しいこともある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手が聞き取りやすいように間をとって話すことができる(知) 相手に伝わりやすい言葉や表現を考えて伝えることができる(思) 他の人の意見に耳を傾けることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする 他の人の意見を聞くことを促す言葉かけ
G	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝える際、言葉足らずになってしまうことがある(知) 司会役として話し合いを進めることはできるが、考えをまとめることは難しい(思) 促しがあれば自分の考えを伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝える際に語句の量を考えて伝えることができる(知) 互いの意見の共通点や相違点を意識しながら話し合いを進めることができる(思) 自分から積極的に伝えることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする 自分から伝えることを促す言葉かけや具体例の提示
H	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝える際、言葉足らずになってしまうことがある(知) 司会役として話し合いを進めることはできるが、メンバーの意見よりも自分の意見を優先してしまうことがある(思) 友だちの話に相槌をうったりしながら話し合うことができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝える際に語句の量を考えて伝えることができる(知) 自分の意見だけでなくグループとしての意見を考えまとめることができる(思) 話し合いがまとまるようにグループとしての意見を出そうとすることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする
I	<ul style="list-style-type: none"> 自分のペースで話してしまうことが多い(知) 自分の考えを伝えることはできるが相手のことを考えて伝えることは難しい(思) 自分の考えを伝えることはできるが他の人の意見を受け入れることが難しいこともある(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手が聞き取りやすいように間をとって話すことができる(知) 相手に伝わりやすい言葉や表現を考えて伝えることができる(思) 他の人の意見に耳を傾けることができる(学) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを提示し、確認できるようにする ワークシートを使用して伝え方を考えられるようにする

注：(知) …「知識・技能」，(思) …「思考・判断・表現」，(学) …「学びに向かう力、人間性等」

8. 本時の指導計画

(1) 本時の目標（評価の観点）

- ・自分の考えを相手に伝わるような表現に直し、わかりやすく伝えることができる（思）

(2) 本時の展開：【見える化ステップ3】

時間	学習内容	指導上の留意点及び配慮事項
10:45	1. あいさつ 2. 本時の学習内容を知る	・スライドを提示しながら学習内容を説明する
10:48	3. ワードウルフ ・はじめは抽象的に、徐々に具体的に話す ・ゲームを通してコミュニケーションをとる	・必要に応じて教員も話に入り、ただのゲームにならないような雰囲気作りや、コミュニケーションがとれるような言葉かけをする
10:55	4. 前回の振り返り 思 ・ワークシートを確認する ・自分の考えをグループのメンバーに伝わるように整理する	・スライドに目標を提示し、確認を促す ・具体例の提示や、考えを整理できるような言葉かけをする
11:05	5. 作戦会議 思 ・グループで話し合う ・他の人の意見を聞いてワークシートに記入する ・グループとしての作戦を決め、ワークシートに記入する	・話し合いのポイントを提示する ・話し合いの様子は iPad で撮影する
11:15	6. ペーパータワー ・グループに分かれて行う ・作戦を意識して行う ・時間になったら手を止め、計測する	・iPad で撮影をする ・作戦を意識していない場合は、意識できるような言葉かけをする
11:30	7. 振り返り、次回予告 ・本時の評価を記入する ・次回の活動内容を知る	・生徒が評価に迷っている時は、客観的にみた様子を伝える ・次回は本時の動画を観ながら振り返りを行い、再度作戦会議を行うことを伝える
11:35	8. あいさつ	

9. 本時の評価 ○：本時の目標を達成している △：本時の目標に達していない

【見える化ステップ4】

	A	B	C	D	E
評価					
備考					

	F	G	H	I
評価				
備考				

研究同人

研究助言者の先生方（五十音順、敬称略）

石 田 喜 美 先生(横浜国立大学)
小 池 研 二 先生(横浜国立大学)
後 藤 隆 章 先生(横浜国立大学)
中 嶋 俊 夫 先生(横浜国立大学)

校長

中 戸 川 伸 一

副校長

羽 賀 晃 代

主幹教諭

万 年 正 浩

教諭（五十音順）

石 黒 悠 樹	竹 本 真 弓
伊 藤 巧	田 中 裕 子
市 村 結 花	中 辻 大 樹 (研究・研修部)
加 賀 谷 聖 (研究・研修部 研究主任)	野 口 拓
北 野 ちゆき (研究・研修部 部長)	野 村 亮 介
黒 沢 千 瑛 美	長 谷 川 博 基
小 池 る み	樋 口 裕 也 (研究・研修部)
古 謝 美 沙 紀	平 山 陽 子
近 藤 広 和	太 等 佐 有 (研究・研修部)
白 取 和 浦	別 府 さ や か
菅 谷 雄 馬	本 城 楓 樹
清 野 千 鶴	水 沼 志 穂
仙 宅 元 記	宮 田 佳 奈
武 田 幸 子	吉 岡 敬 信

養護教諭

有 賀 紀 代 子

令和5年度 横浜国立大学教育学部附属特別支援学校 研究報告書

発行日 令和6年3月29日(金)

発行兼印刷 横浜国立大学教育学部附属特別支援学校
〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-3
TEL 045-742-2291
FAX 045-743-4746